婦人と子供

第一卷
第五號

婦人と子ども 第一卷 第五號 目次

卷首 東京府第一高等女學校本年卒業生及職員寫眞

こども
もゝ●へーたいあそび●豆と炭と藁との話●雀をとる法●謎々の解●考へもの●早口

家庭
子母里ソーダン奥さんくらべ……こにしのぶはち
下女に對する同情……林ふみ
印度土人の家庭生活……Y生
支闘……和歌子
今昔いろは料理……石井泰二郎
それをばけがくろぞ……ひさ子
或母の日記……無名氏

學講史說文研
英語俚諺解……擊水生
育兒學……中村五六
兒童研究法……松本孝二郎
傳
ローランド夫人……鄭越生
ヴヤクトリヤ女皇……同人

林
兒童の道德的訓練……黑田定治
女子の特性を發展せしむべし……澤生

苑
八景(多梅稚作曲)……新保磐次
寫眞……和歌子
春の野邊、故郷の春、つゝじの花、別れし人を思ひ、夕飯の時、神樂、其他和歌十數首

究
臺灣の昔話……町田則文
幼兒の工夫……羽田晴
幼兒の言行……幸次
鳥取の童謡(樂譜附)……鳥取永井
盛岡地方の毛毬歌お手玉歌……盛岡村材美
兒童心性調査表……山寺……鹿兒島……顕

雜錄

五月の自然界○女といふもの○女偏の字○机邊餘錄○見聞錄○可憐の手紙○御神床の次第

彙報

女子高等師範學校生徒募集、外十數件、會報

●發行は毎月五日毎に發行第一號一月廿日發行
●定價 一冊金拾錢●郵稅金壹錢●六冊前金金拾七錢 郵稅金六錢●拾貳冊前金壹圓拾錢郵稅金拾貳錢 ●臨時增刊は甘都度定價を定めて別に申し受く●切手代用は壹割增にて壹錢切手に限る
●注文 は總て前金にて日本橋區本石町三丁目廿三番地金昌堂宛領收證は別に發送せず本誌の到達を以て領收の證と心得らるべし 送金は神田今川橋又は日本橋宰町郵便取扱所受取人金昌堂宛の事見本を要せらるゝときは郵便切手(但し一錢に限る)拾二枚を添へて申越さる可し
●購讀者 宿所姓名は楷書にて御認めの事●轉居の節は新舊共に御通知を乞ふ●前金相切れ候節は赤にて●印を御姓名の上に附し候間前金御送付を乞ふ●御入用なき時は御斷りを乞ふ●編輯 學校附屬幼稚園內フレーベル會宛のこと●廣告料 三十行廿四字詰壹行十八錢●特別欄壹行四十錢●壹等二十一錢●特別半頁十圓●壹頁二十圓●壹等半頁五圓●壹頁八圓●壹等半頁五圓八十錢

明治三十四年五月二日印刷
同 年五月五日發行
編輯兼發行者 東京市日本橋區本石町三丁目廿三番地 山辰之助
印刷者 東京市京橋區木挽町九丁目三十二番地 中野鉄太郎
印刷所 東京市京橋區築地三丁目十五番地 帝國印刷株式會社
發行所 女子高等師範學校附屬幼稚園內 フレーベル會
發賣所 東京市日本橋區本石町三丁目廿三番地 金昌堂
大賣捌所 東京東京堂●同東海信文合資會社●同北隆館

不許複製

此廣告に依り御注文の方は婦人と子供を見たる旨御附記を乞ふ

新撰女子書翰文

本書の特色
女史久しく青山英和學校に在つて國語國文を教授す今回弊堂の需に應し本書を著す雅俗其中を撰ひ繁簡其宜を得たり四季の賀吊細膩答吉凶の例を示すこと數百題東久世伯の序あり鷲堂翁の書式あり製裝美麗印刷明實に女子用文中稀有の良冊と謂ふべし請ふ續々御注文あらんことを

正價壱錢郵税六錢
洋裝菊表紙石版刷

發行所 東京市神田區錦町 勉強堂書店

泰西名婦傳

農學士 永山盛良先生著

製本愈出來

肖像寫眞銅版摺
製本體裁優美
定價金三拾錢

西洋婦人の行徑は吾等東洋人をして奇怪の感を抱かしむるもの往々にして之れあり然れども彼等が社會の表面に及ぼす感化に到りては深窓成人的東洋婦人が精探細索以て他山の石となすべきの價値あるべきに非ず此編收餘する所ステール女史の力妙たる一婦人の身にして能く亦乏しき一敵國の思をなさしめたるメーリーライオンが獨力能くをして一讀三嘆の思ひあらしめざるはなし若し夫れ行徑の如何に經餘曲折の致に富むかは請ふ一本を座右にして之を知れ

奈翁女子大學

トクーツが單身能く億萬の富を左右し遂に男爵夫人の榮位に昇りたるを創立したるバーデッチンゲール女子が如き

赤十字業

其他孰れも各自特殊の天才を發揮し吾人

目錄

ローザ、ボンヒユール(佛蘭西の畫家)●ナイチンゲール(クリミヤ戰爭の女傑)●バーデット、クーツ男爵夫人(英の慈善家)●ステール夫人(佛蘭西の小說兼政論家)●メーリー、ライオン(米の女流教育家)●マリア、ミッチエル(米の女流科學家)●マーガレット、フルレル、チツソリ(米の新聞記者)●エリザベス、フライ(英の慈善家)

發行所 東京市神田區表神保町四番地 勢陽堂

賣捌所 東京堂●修學堂●岡崎屋●林平●服部書店●青野書店●田中書店

此廣告に依り御注文の御方は婦人と子供を見たる旨御附記を乞ふ

豫約募集

新式女子體操書豫約廣告

大日本體育會附屬體操學校講師 白井規矩郎先生解說

女子生理的訓練法

上製全一冊
定價壹圓八拾錢

本書は英國ノース、ハッケニー女子高等學校長ジエームス、アリス女史の考案に係る女子該適の新式體操に基き白井先生の本邦女子に適する樣改訂斟酌して、體操學校其他二三の高等學校に實施せられつゝある所の稿本なり曩に諸教育雜誌上に於て其端緒を紹介せられたるに詳細なる解答を希望せらるゝもの多數なるを以て本書を解說せられ弊館出版の榮を得、茲に豫約募集をなす續々御申込を乞ふ

目次

啞鈴體操　毬體操　シンバー體操　脛脚體操　ブラム體操　木環體操　進行體操　其他生理的遊戲二種

一挿圖　總計百四十七圖にして中百三十五圖は寫眞銅版印刷製本實費郵送費共にて一部金壹圓三拾錢

一實驗　代金引換の事便なれば金拾錢增の事但し代金引換は前金送附せられ難き學校及官衙に限る

一申込　期限は卅四年五月廿日迄

一定員　五百部を以て滿員とし、定數後は定價より割引せず、又期限中と雖も定數に達せば締切とす

一發送　期日は六月十日より

豫約申込所　東京神田表神保町　同文館

申込所　關西大阪後備東町區四　吉岡平助

謹しみて

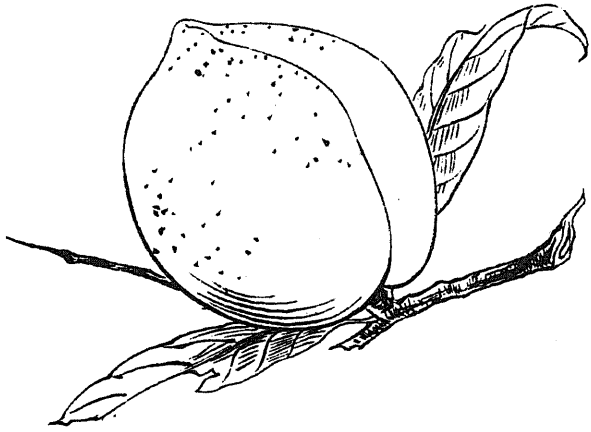
皇太子妃殿下御安産

親王御降誕

を祝し奉る

東京府第一高等女學校職員及卒業生

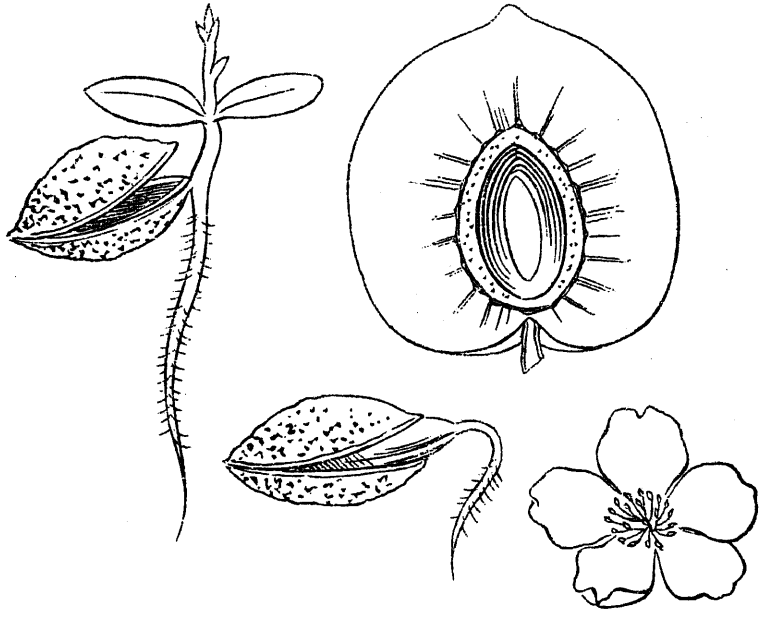
婦人と子ども
第一巻第五號
（明治三十四年五月五日）



（本欄は凡て轉載を禁ず）

もゝ

こゝにおーきなもゝがあります。おいしそーでしょー。もゝのなかにわなにがいるのですか。もゝのなかにわね



たれがあってれ
そのたれからめ
がでっくるのです。
もったろーわなに
からうまれてきたの
でしたっけ。

へーたいあそび
つぎのえをご
らんなさい。ひとり

「チタ　チタ　テ　ピー　ピー　ドン　ドン」

がらっぱをふいてひとりがたいこをたゝいてそれからもーひとりがごーれーかけていましょー。

みんなでなんにんいますか。

よにんでへーたいごっこをしているのです。

『しょーたーい　とまれ』

豆と炭と藁との話

むかしく　ある所で　ひとりの　年とった　おばーさんが　ありましたとさ。ある時のことでした。豆をいろーと　おもって　かまどに　炭を　たくさん　ついで　それから　藁え　火を　たきつけて　くべておきまして　そして　ほ

ーろくの中え　豆をいれて　かまど　え　かけました。

ところが　一の豆が　なにかの　ひょーしに　ふいと　とびでゝ　椽の下え　おっこちたのです。すると　そこにわ　藁が一本　おちて居った。しばらくすると　こんどわ　おーきなおとがして　かまどの　なかゝら　炭が一つ　とびだして　きました。

そこで　藁すべが　びっくりして　「おや　炭さんまー　どこから　あなた　わ　やってきました？」

すると炭　わ　まっかなかを　をして　「やっと　熱

い火のなかゝら　とびだして　きた　とこ　です。
力づくで　でゝ　*ほーろく　から
こないと　も少し　とびだして　きた
で　死んでしまっ　んです。でないと
て　灰になるとこ　みんなと　一所に
でした」　すると　ほーろくのなか
豆わ　そばから　で　おばーさん
「わたしもねー　や　に　いりころされ
っと　のことで*　るんでした。「おや
そーですか　とつわ　わたしもね　あのおばーさん

に　つかまれて　むすこしで　火をつけられるんで
したのさ　所が　やっとのことで。　おばーさん　の
指の間を　くゞって　ぬけて　きたのです。　なんだ
って　わたしらの　兄弟が　六十人も　一所　に
つかまれたんですかられ」。

そこで　炭が　いーますにわ「さて　これから
おたがい　に　どーした　もの　で　しょー？」　す
ると　豆が　ちょっと　小首を　かたむけて　「さよ
ーさ　私の　思ーにわ　まー　お互に　こーやって
あぶない　所を　一所に　たすかった　のですから

これから　三人が　一所に　なろーじやありませんか？　でないと　また　どんなめに　あうかもしれませんよ。　それで　まー　三人で　どこかえ見物に　でかけると　しましょー　じやありませんか」

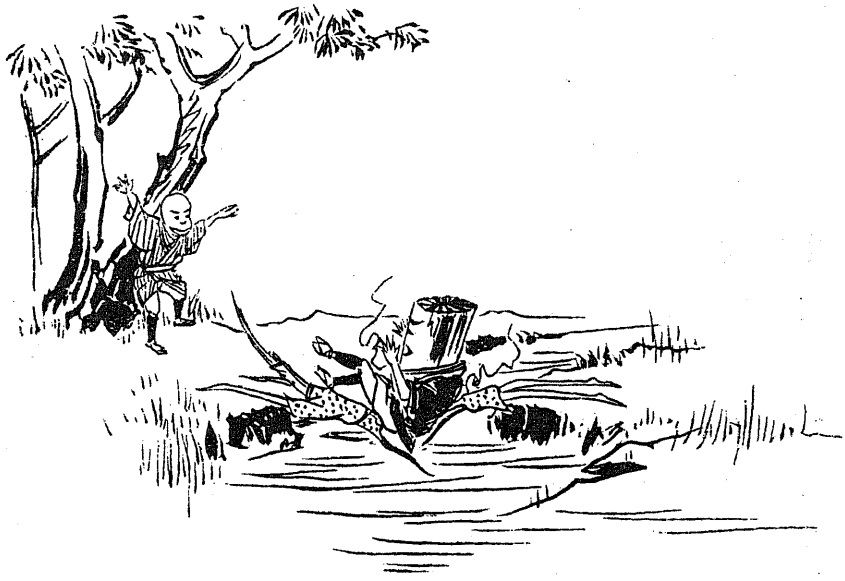
『や　それが　よかろー』　とゆーので　やがて　三人で　でかけました。

さて　だん〳〵　行きました所が　ほそい溝のところ　え　でゝきたのですが　困ったことにわ　橋がない。　どーしたもんだろー　と　ゆーので　三人

とも　考えて　いましたが　藁すべが　はたと
小膝を　うって「いーことがある。私が橋になって
お二人を　渡しましょー」「なるほど　甘いな　でわ
御苦勞ですが　藁さん　御賴みもーしますよ」「よろ
しー　さー　御渡んなさい」といって　藁すべが
こっちの　岸から　向側へ　はしにかゝりました。
「さー　炭さん」「まー　豆さん　あなたから」「でわ
おさきえ　ご免　こーむり　ましょーか」と　ゆ
ーので　豆わ　炭に一禮して　ぽつ〳〵　わたっ
ていって　とー〳〵　向ーがわ　え　つきました。

さきほどから炭わこっちで豆の渡るのを まっていましたがれが性急な炭のことですからまちどーくてたまりませんそこで豆が渡って仕まうとすぐいきなり渡りかけた。なぜ豆わあんなにぐづ〳〵したんだろーなどとおもって一飛にでも渡るつもりでかけたのです。

ところがはしの眞中までいってふいと下を見た所が水がどん〳〵音がして流れて居るので急にからだがふるえて來て一歩も



あるくことができないで
まんなかにじっとして
立って居る豆は向う
で見ておってしきりに
よんで居るがどーしても
進めないそのうちに藁
わぼつくこげはじめ
てとうくまんなか
からやけおちたので
たまりません藁わ

ッに　折れて　流れて　仕舞う　炭わ　じゅうっと
ゆー　音がして　しづんでしまった。
　この　ありさま　を見て　豆　わ　びっくり　ぎ
ょーてん「おやっ」と　さけんだ。ところが　その
ひょーし　に　豆　わ　パッ　と　二ッ　に　はじ
けて　仕舞った。
　こんな　あんばい　ですから　もし　そこえ　だ
れも　來なかったら　三人とも　おなじ　様に　な
って　仕舞うの　でしたが　をりよく　したてやが
そこを　通りかゝって　まめが　二つにわれてるの

を見て　まー　かわいそーにと　ゆーので
糸と　針とで　豆の　われめ　を　縫いつ
けてくれました。
で　みなさん　ご覧なさい　豆にわ　い
までも　その縫目が　チャーン　と　殘っ
てるのが　分りましょー！！！

雀をとる法

やまとの翁

いや、もー、年を取ると、いろんなこと、を、聞くもので、この間も、翁が、さる所で、おかしな話を、聞きました。それわ 雀を取る法なので考は 頗 甘い樣ですが、實際は、其通り、行くもんですか、ぞーですか。まづ一通り お咄だけして 見ましょー。

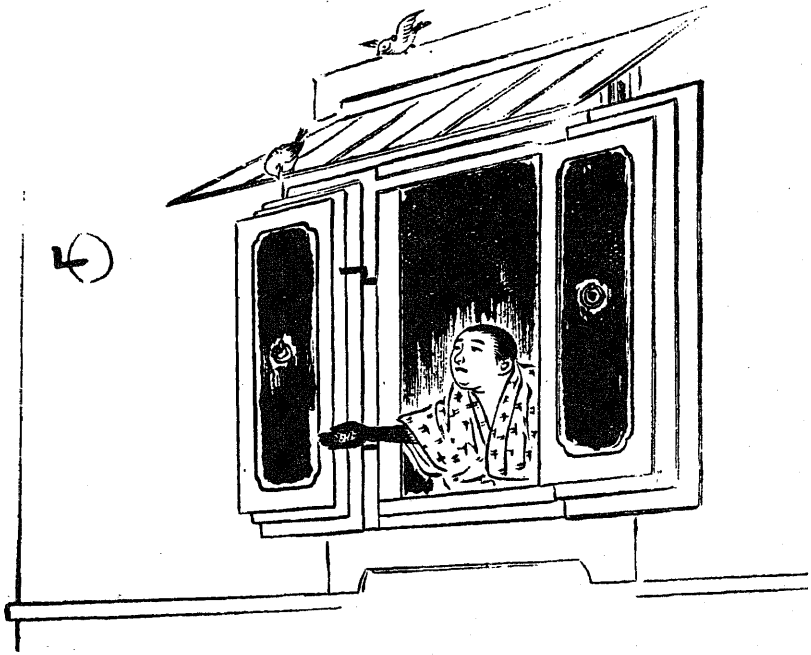
その人の 謂ふのは こーなんです。まづ 鐵の十能のなかへ 米粒を すこしばかし いれてそれを 倉の二階の窓から 外へ向いて さし出して 置くのです。すると 雀は 毎日 朝から倉の屋根の上に 居ますから それを 見て これは結構な ご馳走だ と いふので いきなりとんで來て 食べて 仕舞ふ。さて 翌日に なると また こーして 同じ樣に だして 置いて たべさせる。

こんな風に 二三日 やって 食べさせて おきまして さて つぎには 自分の手 を 墨で眞黑に ぬって そのまっくろな 手の掌へ 米をのせて倉の窓から さしだして 置く。しますると 雀はまた 例の ご馳走 だと思って いきなり 飛んできて 手の掌へ のっかゝって 食べ樣とする所を「どっこいそーは」と云ふ具合に握って つかまへるのです。

と、まー こー謂ふんですがね、翁も なるほど一寸 考へると 理屈は 甘いな と 思ったもんですから「で、その 方法で あなたは 雀を とりましたか」と 聞いた所が「いや まだ取りはしない とりはしないが とれそーに思う

から翁に一つ其方法で取つて見ていたゞかうと思つてお咄しをしたんです。」

そこで翁もこいつは一つやつて見よーかとも思つたですがなにしろ墨でもつて手を眞黒にぬるなんかあんまりきもちのよいもんでもなし、それにきつととれるかとれんかそこも判然しないんですからまー〳〵止すほーがよ



からうと思つてそー云ひました所が其人は「そんならもー一つ「方法がある それはごく手輕いからそれならいゝでしよー」というので敎へてくれたのが次の咄です。これは一寸面白いよーです。

まづ夏の熱い時おはきな柏の葉をさよーさ八九まいも取つてきてそれから酒の糟を米粒ほどにちいさ

く　丸めて　それを　米粒と　いつ所に　まぜ合せて　そして　柏の葉の　眞中へ　のせて　これを　日なた　へ　出しておくのです。

すると　例の通り　雀が　たくさん　やつてきて　夢中になつて　葉の上へ　來て　たべにかゝる。所が　そこが　計略です。そーら　米粒の中にわ　酒の糟が　まぜて　いましょー!!!

そこです。米だと思つて　食べた中には、豈計らんや　酒糟が　まざつて居たから　堪らない。いー加減に　食べて　もー　そろ〳〵　飛んで　歸らう　と　思ふ時分には　からもー　醉つぱらつて仕舞つて　動けない　そーこう　してる

中に　そろ〳〵　眠たくなつて　前後も　知らないで　寢こんでしまうので。

こーなると　もー　しめたもんで　其中に　柏の葉が　だん〳〵　日に　枯れて　見てる　うちに　寢こんでる　雀を　卷いて仕まう。そこで雀殿が　やつと　醉が醒めても　もー　飛んでくことも出來ない。だから　わけもなく　雀が　何羽でも捕るのである。

謎々の解

(一)いの字とかけて
船人の手と解く。心は　艫(ろ)の上に在り。

(二)ろの字とかけて
唇と解く。心は　齒(は)の前に在り。

(三)はの字とかけて

車力の辨當と解く。心は荷(に)の上に在り。

この次の考へもの

力轉ニ山上ノ石一　刀斬ニ水覓ノ竹一　不レ遠ニ千里ノ道一　抱レ玉ヲ一人ノ郎。

昔の英雄の名。誰でしょー？

つぎのことばを出來る丈早く言つて御覽おまへのまへがみさげまへがみ。

家庭

子母里そーだん　こにし　のぶはち

おくさん　くらべ

白かねにも、黃金にも、まさるとうたはれる子寶を持てる親の心に、上下や貴賤の差別のあろうはずはないと思ひますに、兎角、富める人の子や、貴き人の弟は、人の注意の厚きにすぎ、貧しき人の子や、賤しき人の子には、人の注意の薄きにすぐかに見ゆるは、私のひがめでありましょうか

右にのべたる事には、縁もゆかりも無いようで有るような奇驗ばなしを、一つ記るすことの許しを請ひます。そは他ならず、私が今の女子高等師範學校の、まだ女子師範學校と申した時に、附屬幼稚園の監事を勤めて居ました間に、或時、某醫學博士の長男と、某内務高等官にして、後には社寺局長縣知事まで勤められたかと思ふ（兩君とも姓名は態と省く）人の長男と、手を引き合うて遊歩場でころび、二人とも額の上にすり疵を生じ、保姆も私も大に心配し、其頃は、幼稚園と順天堂とは向門でありましたから、直に應急の手當を請ひたる後に、私は牛込なる内務高等官の宅に附添參り、事務掛柴田直記君は、湯島三組町の醫學博士の宅に附添參り、注意不行屈により、怪我致させ、申譯なき次第懇ろに詫入れしに、婦人にも似合はぬ荒々しき聲立てゝ、奥の間にて、士の長男の眉間の疵とは何事ぞ、一轉誤らば、眼をも失なはんに、監事も事務員もあり、夫々保姆のありながら、不行屈ならずや、と散々に言ののしりて、自身には、出ても來ず、これ聞けがしに、取次に以後御氣を附けなさいといへと云付けし權幕、壁障子を通して見ゆるが如く覺え、いともいとも口やしくぞ感じたりしに、引かえ湯島なる醫學博士の婦人の言は、又驚くばかりの謙退なりしぞ、身を縛ばられ、鞭うたるゝよりも、心には苦痛を感じたるぞ、今に忘れず。その言に、良人は、只今伯林に留學中にて、折々の通信にも此子のわんぱく盛り、若しや、外の御子樣方に、怪我でもさせてはならぬからと、毎々の樣に申遣し、夫のみ心配致し居りますに、自分の子、しかも一寸したす

り疵に、御手厚の御手當の上、態々送り下されるとは、毎日の御厄介にかて丶加へての厄介、何とも御禮の申上よーもなし、何れ參園の上監事始め諸先生にも、御面にかけて、篤く御禮申上げよーというたと申して呉れと述べ、偖翌日、早朝に小石川水道町柴田氏の宅まで、卵の折を持參し、歸途幼稚園に寄り、丁寧に諸保姆に挨拶し、只今一寸昨日附添御送下された事務員の御方の宅まで、御挨拶に參り、極些細の卵折持參致したが、何んというても御園の御規則であると申し御取り下されぬで、此上は何とも致しかたなく、實に痛み入りますと申し述べられたには、甲乙兩夫人かくまでの差あるとは、抑〻教育によるか、或は氏なくして玉の輿に入りたる類にやと、一方に向ひては、愛敬の念に堪へぬばかりなるに、他方に向ひては物しらぬにも程こそあれとまで、腹立たれしは、私の心の狹きによるは萬々なれども、交際上言語の大切なる、殊には婦人令孃はじめ、人の奥樣となりては、言語の表てに、心の奥の見え透くこそ、淺間しけれと、かねて御注意を請はんとするは、禮を失ふ業とはしれど、餘りの腹立しさまゝ、忘れ草ならぬ紙屑籠の底の埋草。

物いへば唇さむし秋の、かぜ

下女に對する同情

ふみ子

同情のない家庭といふものはまことに冷なものであります。これに反して家人相互に同情のある家はあたゝかい春のやうなものでありまして、同

情といふことは實に一家の平和と幸福のみなもとであります。

さて其同情といふ中には主人夫婦が老父母に對する同情もあり、夫が妻に對するのもあり、妻が夫に對するのもあり、親が子供に對するのもあります、これ等は皆人々のよく心得て居ることでございます。しかし茲に日本の家庭に多く缺けて居るのは召使に對する同情でございます。

「おゝほんとに下女といふものは仕方がありません骨の折れるばかりで、いくら自分がした方がましかしれません。」

「ときものをさせますと糸くずばかりつけておきます、洗濯をさせますとかんじんな所は一寸も垢がおちてありません。」

「幾度同じ事をいふかしれません。」

などいふことは、屢々主婦達より聞く泣言でございます。諺にも人を使へば苦を使ふといふこともございます。

實に彼等無教育な下女は愛が過ぎると増長し、威が過ぎるとなつきません。まことにむづかしいものでございます。

一體下女といふものはどんなに取扱つたらよいものでございませうか。先づ自ら働いて後率ゐるといふことも必要でございませう、また、きまつた適當な休息と睡眠の時間を與へることも必要でございませう、また十分に飲食させることも必要でございませう、また、それ相應な快樂を取らせることも必要でございませう、とにかく、色々秘訣がございませうが、つまり、大切なのは彼等に對する同情でございます。

さて、同情をしてやるには、彼等がこれまで、どんな家庭で、どういふ風におはきくなつたかといふことを知つて十分考へてやらなければなりません。

そこでどんな人が下女になつて居るかと考へて見ますと下等社會の娘とか、または田舍の百姓とか、獵師とかの娘であります。さもなくば不幸に出逢つて據なく、下女をするものもあります。ですから其品性に色々缺けた所のあるのも、尤もであります。

下女といふものはおほく斯樣なものでありますから、決して一箇の相當の教育のあるものゝ樣に考へてはなりません。不規律不整頓な家庭におはきくなつたものに、直に奇麗に洗濯しろ、奇麗にときものしろなどゝ。望んでも出來ません彼等は實に無知無能の憐びきものでありますから、親切にだん〳〵と導かなければなりません。

然るに世の中には、下女をあつかふのに同情をもつてしない主婦が澤山ありますから下女はやゝもすると、かげ口をいつたり、不平をならしたり、忠實にはたらかなかつたりしまして、一家の平和をきづゝけることがよくあります。若し主婦か十分の同情をもつて取扱ひましたならば、こういふことは決してございません。して見ると、主婦が下女に對する同情といふことは只下女其のものにとつて幸福なばかりでなく、一家の平和の上からもごく必要でございます。

岩つゝじ折りもてぞ見るせこがきし
紅そめのいろの似たれば

印度土人の家庭生活（承前）

Y. I.

印度の婦人達の、今一ッの務と申しますは、午後になつて、友人や、知己の家を訪問することと、來客に應接することゝですが、一家の主婦は年若な娘を二三人も連れて、訪問に出掛ることもいたしますし、又來客のもてなしもいたします。隨分、澤山、大きな御祭だの、宴會などをなしますが、モハメット教の感化がすくなくつて、印度人の從來の風習を變へなかつた地方では、ブラミン其他高貴な種族の婦人達でも、面被をしたり、閨房にのみ引籠つたりする樣なことは、いたしませぬのみならず、男子の出席する宴會にも出ます唯男子と混同することはしないで普通は會場の一部分に婦人同志で集會し又男子達は、他の部分に集ります。

宴會などに出ますには、婦人達は、若い娘や小供をも打つれて、皆大層立派に着飾て、それから持て居る丈の金玉寶石を輝やかしてまいりますので、會主が賓客を慰めるために備へて居る音樂だの、詩歌の吟唱などをきゝましたり、或は其他種種の饗應をうけ、多くの友人知己や、その小供等と面白く愉快に談話するなど、凡べて男子とおなじほどの、愉快を得るのです。こういふ宴會の外に又、婦人の間でお互同志が、もつと親密な會合をしば〳〵催しますが、之れには男子の出席を許しませぬ、こゝ云ふ會では、子供達は、隨意に遊びまはり婦人達は、お互に打ちとけて、會話をいたしますが、散會する前に、小さな銀の盆に、紅粉を盛つて、持つて廻りますと、婦人達は各々少

しばかりづゝとつて額につけます。どういふ譯かと申しますと、それは、婦人の容貌を一層うつくしく見せるといふのですが、併し、たゞ小供と、既婚の婦人のみがつけられるので、つまり、繁榮の印なのでございます。これがすみますと、茶菓が出ますが、砂糖漬や、果物や、砂糖木の樹汁などの御馳走なのです。そうして、若し庭園のある宅ならば、一同は庭に出でゝ逍遙することもありますが家族のために、晩餐の用意をする時刻までには、各々歸宅いたします。

又婦人達は、一家族の中で團體を作つて、此處彼處の神社佛閣に參詣いたしますが、印度では、到る處に神社佛閣がありますゆゑ、好な場所を撰ぶ事が出來ます、これは丁度午後のよい散歩なのですが、時には、車に乘つて、うるはしい森林へ

行きまして、その森の中の寺院に詣で、花枝や、果實や、お賽錢などをさゝげて歸ることもございます。

時々家族の一人が病氣に罹りますとか、或る娘が惡魔に取りつかれたと妄想するときは、遠方の神社に參詣いたします。こういふ場合には、家族中で出られる丈澤山の人數が、この娘に附添うて、それから、一人の信賴すべき親戚の男子に後見させて出掛けます。此旅は、四五日もかゝります、なぜと申しますに其道中と申しまするが、隨分險惡で到底、徒步せなければならぬ所もあるやうな國を越へて行きますのですから、道がなか〳〵捗りませぬ、若し、牛車でまいります場合には、一日のうちに、一度は留まつて休息いたします、食物は辨當支度にして携へてゆき、それから、夜分

になりますと、御堂の様な中に泊るのですが、このお堂と申すのは、いく百せん年のその昔、この國の信心深い婦人達がこれらの神様の御利益のために、この神社に參詣する後々の順禮や、旅人の旅行をいく分か安樂になしたいと云ふ願望で、建立したのであります。それで、この旅行は難儀なことは、隨分難儀ではありますけれども、平生毎日〳〵の同樣な、單調な生活を離れて新奇な狀態に遭遇し、何程か、心目を喜ばしめるのでございますから凡ての旅人のためには、まことに結構な、面白い、そうして健全な經驗でございます。ですから、病人も次第に快よくなりはじめまして、一行がお宮に着いて、禮拜いたし、清淨にせられて、貢物を獻げ、神官が惡魔を追拂ふ頃には、もー、全く快癒いたします。そこで、この巡禮の一行は、その念願を成就いたしまして、喜んで歸途につきますが、その家族では、この巡禮で以て、誓願を完ふし、過罪を贖つたことになるのでございます。そうして、又この一小巡禮旅行は、そのちいつ〳〵までも、事にふれ、折に臨んでは、持ち出される話の種となるのです。（つゞく）

時鳥ほと、ぎす迚あけにけり

玄關

和歌子

玄關は家のうちで、第一番に多くの人の目に觸るゝところでございます。私はこれまで隨分いろ〳〵の玄關を見ました。

ある家のは、誠によく整頓して居りまして、拭掃もよくゆきとゞき、只こゝでおとなふだけで

も、心持がよい位でございました。

ある家のは、障子の紙は破れて居り、式臺の隅には塵がたまり、下駄は澤山縱横にぬぎすてゝございました。

ある家のは、式臺や疊のところはきれいでございますが、今朝掃きすてたらしい塵が土間にちらばり、上を仰げば、蜘蛛の巣が張つて居りました。

右は最も著しいものでございますが、其外一々申しますと、隨分さま〳〵でございます。併し要するに、玄關には整頓と清潔の二が必要であるといふことをさとりました。

又取次は、玄關のつきものでございますが、急いで立ち寄つた時などに、いくら案内を乞うてもきこえず、永く立たせられるなどは、隨分じれったくなります。又譯の分らなさそうな人が出て、

應對されるには、どうも不安心な心持がいたします。又遠來をねぎらひがほに、愉快に取次をしてくれると、一寸の事ではございますが、うれしく感じます。又取次人の無作法なのは、無論見苦しいものでございます。とにかく取次はなるべく早く、確に、親切に、そうしてしとやかにありたいものでございます。

夏山の遠き檜の涼しさを
のなかの水の綠にぞ見る

今昔

いろは料理

石井泰次郎寄稿

（は）

●皐泡雪の拵へやう

雞卵のよろしさを、五ツ丼のなかにこわし入るべし、但し白身のみを別に入るゝなり、黄味は殼

の中にとめ置て別器になしおくべし、扨其白身に葛の粉一分程を合せて、鍋に手引かげんの湯を入て、右の玉子をうちこみ手早くかきたつべし、通常の泡雪たまご十程のかさに成るなり。

○通常の泡雪玉子とは、白味を絹にて漉して、丼鉢に入て茶せんにて能く搔たてゝ泡立たるを、煮立たる湯に流し入て、杓子にてすくひ上て用ふなり。

○又一種のつくりやうは、卵の白味を漉して深鉢に入て、細串六七本にてせわしく搔立れば、泡立を薄板に厚さ三分ほどにのせてこしきに入てこし、直に出すべし、又結びてつかふ時には、水の中へ入て細く長く切て水の中にて結ふべし。

右の三種は、いづれも吸物につかふ仕方なり。

此泡雪の古き物は、南都の興惣があわ雪とて有名の物なり。其拵方は左の如し。

先づ鍋に鰹煎汁を入て、露を仕立おき（だしに豆油を合せ吸物のつゆに仕立おくなり）玉子の白身を茶碗へ入て、茶筌にて茶をふるやうに、あわ立たせて下地の煮立たる中へ、其まゝすくひ入て取あげて吸物の汁に入て出すなり、吸口には、うどめよしと見えたり。

●鉢の木といふ吸物

梅干。　蛸。　これはさくらに見たてたるなり

松露。この三つをよろしく切形して、取あはせたる吸物なり

●蛤の鹽辛の拵やう

小蛤のひきみ壹升へ、鹽三合ほどを入て、搔まぜて笊へ入てふりて、ぬめりを取去りて、水にて、

なはぬめりを洗ひ、しづくをたらして、鹽二合、糀二合、古酒二合柚の葉少し入てかき交ぜて、器へ入おきて一週間ほどへてつかふべし。

それおばけがくるぞ

ひさ子

それおばけがくるぞ。そんなに無理を言ふと、おばけがきて食てしまふよ。

春チャンや。いつまでもおしやべりをすると、おばけがくるから、れとなしくして、早くお寢なさいよ。

花子や。一寸こゝにきてごらん。あの暗い處に、おばけが見えますよ。

なぜゝいふことばは、阿母さんなんかの口から、よくでることばでございます。ある人が、日本の家庭は妖怪の製造所である。といはれましたのも、あながち無理ではありますまい。そうして、かやうにひきあひに出されるおばけは、大抵ぞういふ場合につかはれるか、と申しますと、

一、子どもがいふことをきかぬ時に、おばけをもち出し、こわがらせて從順ならしめやうとすること。

二、自分の意に從はすために、はじめからおばけでおどしてかゝること。

三、深いわけはなく、からかい半分におどして見て、子どもが、キャッ〳〵とこわがつたり、目をまろくして居るのを見て、おもしろがること。

まづ右のやうな場合が多いであらう。と思ひます。

三のやうな場合が澤山ありますと、子どもはなれてしまつて、こわくも何ともないやうになり、おどす人もおどされる子も、おもしろくなくなりませう。又一や二の場合にしても、あまり幾度もかさなりますと、子どもは、おばけでおどされなければ、いふことをきかぬかあるひは、おどされてもきかぬやうになりませう。

さて、そのおばけといふものが、實際世の中にありまして、眞におそるべきものであるならば、まだしもでありますが、勿論ないもので、從ておそるべきものではありません。只昔の迷信時代のおなごりとして、人々の心や、書物や、話に、殘つて居るだけのことであります。そうすると、大切な子どもを、教育する爲に、こんなつまらないものをひきあひに出すのは、愚な話ではありませんか。たとひ大きくなつてから、おばけといふものはないのである。といふことを知る時代が來るにもせよ。それを知るまでに、多くの年月がかゝり、徒に心力を費すことを思へば、ほんとうに害あつて益のない話であります。殊におばけの話や、おどすことが、小心、臆病、卑怯、迷信などの基になることを思へば、なほさら、日本の家庭から、おばけといふことを、遂ひ出してしまはなければなりません。

つまり子どもにおそれさせてよいものは、決して、おばけや、天狗や、狐や、狸の類ではありません、道理上眞におそるべき事物を、おそれさせるが正しいのであります。

郭公なく聲きけば別れにし
故郷さへぞ戀しかりける

或母の日記

無名氏

明治三十三年九月三十日出生の女

父　小學教育に從事す。

母　專ら家政に當る。

其他の家族。親子三人の外なし。

女と兩親との續柄。長女

父母の年齡。共に成年以上。

父母の體質。父は稍弱く母は通常なり。

姙娠中の概況。家內平穩にして、母の身心に於て亦異常なし。受胎五六ヶ月にして胎兒の運動活潑なるを覺ゆ、これを以て醫師產婆の鑑定には、男兒なりと云ふ。

出生の當時。母の實家に於てす、祖父母に於ての初孫にして珍重せらるゝと限なし。この間の觀察充分ならず。

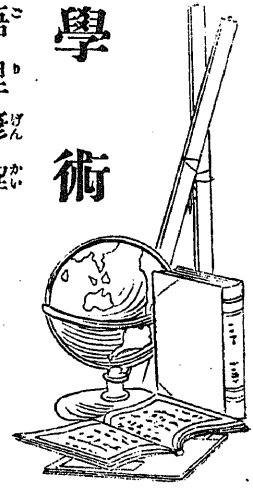
體兒の特徵。母の乳汁充分なるを以て全身肥滿營養佳良恰も男兒の如し。

生後四十四五日目にして燈明を見付けたり、五十一日目に母の實家より歸るの途、風にさらされ顏の皮稍剝げたり、六十餘日にして乳貰ひの兒より眼病を傳染し、めやにを出し折々泣く。一週間にして愈ゆ八十四日目より（これ迄は橫臥又は脊負ふ）朝つぐらに入れ夕方出す、母は傍にありて裁縫をなす。つぐらにあり至て靜かなりしが凡そ六十日にして之を厭ひ這入ることを好まず、よりて又橫臥せしめ時に脊負ふ此頃より獨にて置くときは乍ち泣き傍に連れ添ひあるときは靜なり。

九十日餘にして夜乳房を尋ね付けて乳を呑む此頃より眼を左右に轉じて人の顏を見送る。生後百

日目の體量一貫二百二十目。百四五日目にして呼び聲に應じて、眼或は頭を左右にめぐらして之を見付けたり。

記者曰す、この一篇、越後邊りのある讀者より懇々贈りこされたるものなり。申し出によりて、懇と寄稿者たる母君の名を省けり。尚この子どもの成長につれて觀察せる所を續々本誌に投ぜらるゝことを約せり。吾人はこの可憐なる幼子の、將來ます〳〵健全に幸福ならんことを祈る。



學術

英語俚諺解

擊水生

One home (Continued)

家庭に關するもの（前號の續）

A bad husband can not be a good man.

夫として惡しき者は、人として善良なる能はず。

A bad wife likes her husband's heel to be towards home.

惡しき妻は、其夫の踵が、家庭に向いてあることを好む。

He who marries for wealth sells his own liberty.

財産を目宛にして、婚禮する男は、自家の自由を、賣却する者なり。

A good wife and helth are a man's best wealth.

善良なる妻と健康とは、男子の最良の財産なり。

In marriage it is all very well to say that the two are made one" the question is which one.

結婚に於て「二つが一つとなる」と言ふことは、全間違なし、さりながら、その一つは、どんな一かと云ふのが、疑問なり。

Who has a bad wife, his hell begins on earth.

惡しき妻を持つ者は、この世からの地獄に陷れるものなり。

Blessed is the man who hath a virtuous wife, for the number of his days shall be dauble.

貞淑の妻を持てる者は、幸福なり。何となれば其人の日數は、二倍となるを以てなり。

When the husband earns well, the wife spins well.

夫がせつせと儲ける時には、妻はせつせと紬く。

On women.

婦人に關するもの、

As unto the bow the cord is.
So unto the man is woman,
Though she bends him she obeys him,
Though she draws him, yet she follows, useless each without the other.

弓に弦ある如く、男子に女子あり。
女子は男子を曲ぐとはしくも、併も男子に從ふ。
彼は男子を引けども、併も之に伴なふ。

者、其一のみにては、用なきものなり。

A woman who looks much in the glass spins but little.

専鏡にのみ向ふ女は、紬ぐこと少なし。

One hair of a woman draws more than a bell-rope.

婦人の髪毛一筋は、ベル綱よりも引くこと強し。

She is noblest, being good.

婦人の最高尚なるは、其善良なるに在り。

Whatever may be the customs and laws of a country, the woman of it decide the morals.

國の習慣法律は如何ありとても、其國の婦人は、道德を決定するものなり。

Women are the poetry of the world.

婦人は世界の詩歌なり。

Kind words and few are a woman's ornament.

やさしき言葉と、言葉數の少は、婦人の裝飾なり。

Nothing makes a woman more esteemed by the opposite sex than chastity.

男子をして最尊敬せしむるものは、婦人にとりて貞操より他にあることなし。

A virtuous woman! her price is far above rubies.

德高き婦人よ！彼女の價値はルビーよりも尊し。

Woman's beauty, the forest's echo and rainbows soon pass away.

婦人の美容と森の反響と雨後の霓とは、消ゆるに速なり。

Women have more strength in their looks than we have in our laws and more power in their

婦人が容貌に持てる力は吾人の法律に於ける力より強し、其涙に持てる力は、吾人の議論に於ける力よりも強し。

On children.

子どもに關するもの。

What is learned in the cradle lasts till the grave.

搖籃の中に學びし所のものは、墓場まで永續す。

Let a child have its will and it will not cry.

子供の思ふがまゝにせしめよ、然らば泣くことなからん。

A wise son mekoth a glad father, but a foolish son is the heaviness of his mother.

賢き息子は、喜びの父を造れども、愚な息子は母の重荷なり。

Better their laughter, than a chamber neat.

室の美しさよりも子供等の嬉笑なるかな。

Only in their mirth is home complete.

たゞ彼等の歡樂の中にホームは完成せらる。

* * * * *

A colt you may break, but an old horse you never can.

子馬は馴し得べけむも老ひたるは遂に馴らすこと能はず。

Children are what the mothers are.

子どもは母の姿をうつせるものなり。

Chastise a good child that it may not grow bad, and a bad one that it may not grow worse.

善き子を訓誡して惡しくならしむるなかれ、惡しき子を訓誡して、よりわしくならしむる勿れ。

On Friendship.

交友に關するもの。

A good friend is my nearest relation.

良友は我が最近の親戚なり。

There is no better looking glass than an old friend.

舊友に勝る鏡なし。

Promises may get friends, but fis performances keep them.

約束は友を得ることあらん。而も交情を保ち行くは約束を成就するに在り。

Friendships multiply joys and devide griefs.

友情は喜を倍加し悲を半減す。

A friend to every-body is a friend to no-body.

何人にも友たる人は何人にも友たらぬ人なり。

Juage before friendship, then confide till death.

友垣を結ぶ前によく判せよ。然る後は死に至るまで信頼せよ。

True friends visit us in prosperity only when invited but in adversity they come without invitation.

眞の友達は吾が富貴の時に當りては招かざれば來らず、災厄に當りては招かずとも來訪す。

False friends are worse than open enemyies.

僞友は公敵よりも恐るべし。

The rich hath many friends.

富者には朋友多し。

Wealth addth many friends.

富は多くの友を增す。

＊　＊　＊　＊　＊

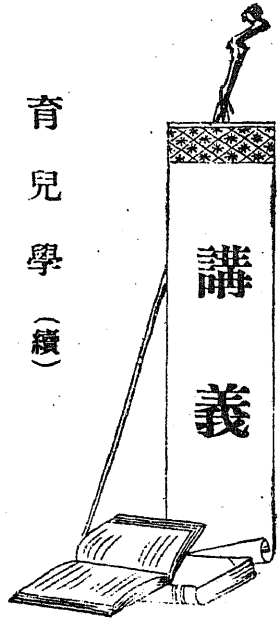
A true friend does sometimes venture to be offensive.

眞實の友は、時としては我意に反くことをも敢てするものなり。

Adversity is the only balance to weigh friends.

災難は、朋友を量るべき唯一の秤なり。

（以下次出）



育兒學（續）

中村五六

第四章　清潔、運動及睡眠

◉清潔、身體を清潔にすることは、幼兒にありては健康上第一に必要であります。幼兒の皮膚は極めて細やかに美しく、又感じ易く且つ傷ひ易きものでありまして、其の上これが斷えず不用の物を發散する部分となりて居ます。こゝに出づるものは卽ち皆人の知れる汗でありまして、汗汁の中には、動物質や鹽分を含んで居ます。

皮膚の表面よりは、汗の外に脂肪分を出しまし

て、これが皮膚を柔軟にし、且つ幾分か傷害を防ぐの用をいたします。殊に頭、腋下、頭、鼻、曲りめの褶多き所には多量の脂肪が出でますれば、頭髪が乾き切りて折れ損ずることなく、皮膚が擦れ合ひても傷ふことなく、又皮膚にかけたる水が小き球となりまするは、全くこれが爲であります。

幼兒にありては、此の脂肪の出づること、稀には、唯皮膚を柔軟にするに要する分量に超ゆることがあります。而して、幼兒健康のときには、これが非常に多く溜らざる限りは、不快の臭氣を放つことにはなりませぬが、汗出でゝ不潔の物が混入し長く皮膚の上に滯るときには、皮膚の孔を塞ぎて發散を妨げ、從ひて不潔物の幾分は身體に止りて害を及ぼすか、又は腸、腎、肺の如き所に他の通路を求めて逃げ出づることになり、此等內臟に過分の勞を課して、其の働きを弱むるの危險を生じます。加之時によりては、皮膚自ら弱くなりて面倒なる頑固の腫物等を生ずることに至ります。

皮膚より出づる物の成分を考へて用心すべきことは、左の二ヶ條であります。

第一、眼には見えざれども、其の成分中最も多き蒸氣を能く逃散せしむること。

第二、皮膚に附着して殘れる固體の鹽氣の物を除くこと。

第一のことは其の質輕くして孔多く氣が通ふ如き衣服を體に緊り過ぎざるやうに着用し、且つ屢〻之を着更ふるときは、十分に其の目的を達します。

第二のことを能くせんには、屢〻溫浴をなすにあ

ります。

溫浴をなすの際には、しやぼんを使ふことを勸むる人がありますが、これはいつも必要とは思はれませぬ、幼兒には事によりて害を與ふることがあります。全體顏面、手足等に何か附着せるときは、しやぼんを使ふは入用でありますけれども、始終用ひまするときは、前に述べましたる脂肪の働きを空しくすることになります。多く風を引くことの原因は之によることも少くありませぬ。故に幼兒の沐浴には成るべく皮膚をあらさゞる如き上等のしやぼんを用ひ、通常の場合には奇麗なる柔水を浴せしむるを、最も選ぶべきことゝ思ひます。

溫浴の仕方は、前章に於て既に大略述べ置きましたれば、こゝには詳しく說くの要はないと

思ひます。唯湯の溫度をよく加減し、幼兒の身體を湯の中に沈めてよく洗ひ、寒氣に當て身振ひするなどのことなきやう、注意すべきことであります。

身體を淸むるに最もよき時は、臥床より起きたる朝にあり、又入浴は寢に就くの前を最も宜しと申します。幼兒は入浴の後は快く眠るのを常といたしますれば、騷がしくぢれる小兒には寢る前の入浴は効あることとなります。併し、幼兒身體の模樣によりては右の時を適宜に變ずることは大切です、殊に冬季室內の溫度を程よく保つ能はざる場合に於ては、日中溫暖なる時に於てすることを安全の策と申さなければなりませぬ。

入浴は幼兒の自然に好むものなれども、度外に熱き湯に入れしことありとか、又は其の他の事情

に由りて、之を嫌ふもの稀にあります、かゝる場合には、強て入浴せしむることは出來ませぬ故に、溫湯にて濕したる手拭等にて拭ひ清むることを致さなければなりませぬ。如何なる場合にも、幼兒の皮膚を濡らしたるまゝ空氣にさらし置くときは、由々しき害を起すことありますれば、冷氣に當らざるやう、又速によくふき乾かすなどの注意が最も肝要です。

或人は幼兒の生れたてより冷水浴をなさしむべしと、申しますれども、最初よりは少し無理なるかと思ひます、唯幼兒の身體非常に强壯にして、冷水浴により何等の障りなきときは、勿論利ありて害なきことであります。併し冷水浴は溫暖なる時節より始むるとか、又は朝に體を拭ふに用ふる湯の溫度を漸次に引き下ぐるとか、何れに致せ、徐々に冷水に慣れしむることが大切であります、又浴後十分の反動ありて、速に體が溫まるの力なきときは、之を止めて溫浴に代へるの外はないと思ひます。年齒漸く長じて抵抗力强くなりたるときは、冷水浴を試みしむるは望ましきことであります。全體浴後身體を摩擦し、又暫く裸體のまゝ所謂空氣浴をなすは快よきのみならず、身體の爲に宜しきことなれば、健康の許す限りは、之を行ふは一利あることゝ思ひます。

身體を清潔にするは、皮膚より出でたる不潔物を除くのみならず、衣服より與ふる塵埃其の他の物を去るにあります。幼兒生れて暫くの間は、腸及腎臟よりの排出物は不隨意に出づるものなれば、此等の不潔物を洗ひ去るの要は誰人も認むる所であります。

◉運動、幼兒の身體を動かすは、其の健康に必要にして、又運動を好むは問ふでもなく明かなる事實であります。幼兒に適切なる運動をなさしむるには、唯其の身體の有樣をよく〳〵心得置くこと肝要です。骨も肉も未だ柔弱の狀態にある間は、其の强さを超えて勞せしむることは出來ませぬ。先づ幼兒の運動としては、唯之を横に若しくは斜に抱きて、室内又は戸外に運び廻はる丈にて宜しいのです。又浴後手を以て幼兒の身體手足の表面を靜かに撫で廻はすことは、血液の循環を自由平等ならしむるの効あるのみならず、大に幼兒に愉快を與ふるものであります。さるを親たるもの、幼兒の狀態未だ筋肉の運動をなすに適せざるに當りて、己れの樂みに其の運動を勵ますとありますが、これらは非難を免るゝことは出來ませぬ。但し幼兒自身に筋骨を勞して運動せしむる代りに之を抱きて、戸外純良の空氣中に於て靜に動運するは、大に奬勵すべきことであります。

夏季若しくは晩春に生れたる兒は、十四五日間は其の運動は室内に限り、其の後は時々十五分より二十分位戸外に於てするも宜しいです。されども冬季若しくは晩秋に生れたる兒は、戸外に出すことを得るのは、四週若しくは六週日の後にあります、但し是れ亦暖かなる好天氣に暫時の間に限ります。

時節の如何に拘らず最も注意すべきは、考へもなく强き明り殊に太陽の光線に觸れしめざることです、何故と申すに、幼兒生れて數週間は其の眼は妙弱にして害を受け易く、且つ視力も甚だ不完全でありますれば、不意に光線に射らるゝとき

は、眼球の構造を害し、視力を弱くし、時によりては、全く明を失ふことに立ち到ります。

戸外に出でしむる時間は、最初十五分乃至二十分位より、月日がたつに從ひ漸次に長くして一時間又數時間に及ぶやう致します。幼兒は多く戸外にあるを好むものでありますれば、其の好むに任せ格別の注意なきときは、危險に陷ることがあります。幼兒の死するは夏より冬に多く、暖國より寒國に多き原因を、早くより戸外の冷氣に觸れしむるに歸する人ありと聞きて居ます。

幼兒を抱くときは、時々其の向きを變へること大切です。然らざるときは、幼兒の頭は重き故に常に一方に落ち懸り、遂に呼吸を妨ぐることになります。故に生れて四五ヶ月の間は、寢ねたる形にて抱くやうに致し、又常に身體に無理が出來ぬやう注意せざれば、柔かなる骨は曲りくるふことがあります。漸く身體の強さを增して、追々運動を多く要するに至りますれば、座敷に置き其の周邊に玩具一二を添へて、自由に伸ばしめねばなりませぬ。尤も此の際には、衣服長きに過ぎて、運動の自由を妨げざるやう注意すること肝要です。」

右の如く、幼兒に成るべく自由の運動をなさしむるときは、身體いよ〳〵強くなりて、速に匍ひ廻り又立ち歩ひやうになります。斯く匍ひ又歩むやうになりますれば、或は物につまづき倒れ、或は高き所より落ち、怪我するあらんを恐れて、運動の自由を制するは有りがちのことですが、成るべく危害を與ふべきものを取り除き置きて、其の自由を妨げざるやう注意あらんことを望みます。

幼兒の歩み始に當りて、強て之を助けて歩まし

ひるは、世俗にも脚が曲るなど申すが如く、其の強さに不當の重荷を負はしひるの道理にて、宜しからざることであります。又屢々倒るを危しと云ひて、常に之を助くるは益なきことにて、幼兒自ら倒るゝ一回の經驗は、他より與ふる千の誡に優りて、自ら用心し氣を附くるに至ります。實に自ら行爲を制する如く訓練するの大切なるは長幼により違ふ所はありませぬ。

子のたけの伸びたはなしや　初裕

兒童研究法

松本孝次郎講演

子供を研究するといふことは、學校幼稚園ばかりではなく、家庭ですることが甚だ必要です。

植木を愛する人は、植木のことをくはしく知れば、知るほど、植木がかわゆくなり又おもしろくなり、又どう扱ふのがよいかと熱心に考へるやうになります。子供で考へても同じです。子供のことを研究すればするほど子供に對する同情が深くなり、興味を增し。又自分の取扱はどうすればよいかわるいかといふことを十分考へるやうになります。ですから子供を研究するといふことが研究者の精神に及ぼす結果は、

第一、幼兒に對する同情の念を增す事

第二、幼兒に對する興味を惹起す事。

第三、幼兒を保育するといふ事業に忠實になること。

であります。

さて研究せらるゝ幼兒の方はどうであるかといふと、よく幼兒に適當した保育と教育を受けると

ができるといふ幸福があります。

この通り、兒童研究といふことは、研究者にも被研究者にも利益があります。しからば其研究法はいかんといふに、それには二あります。即ち一は理論上からわり出したもの、一は實際上からわり出したものであります。

私はいま實際上から來たアール、バーンス氏の研究法に付て申しませう。この人の出しました報告に「スタディース、イン、エジュケーショシ」といふのがあります。それで其報告の中に說きました研究法は、理論的と云ふよりは實際的でありまして、實際研究するに便利なやうに說いてあります。此人の說き方に據りますと。

第一の研究の仕方は、家庭とか或は學校で以て毎日子供を觀察致しまして、材料を集むるとか、即ち自然の儘に子供が生活して居ります所の樣子を觀察致しまして研究すると云ふ法、それを第一として論じてある。それから、

第二の方法は、先づ種々と子供の書きましたものをば澤山集めます。さうして後に書き物を見まして段々に其取調べの結果として、子供はどう云ふ考へを有つて居るか、どう云ふ性質のものと云ふ事を極めると云ふので、始めから自分の方に考へがあつて斯う云ふ事をやつて見やう、アー云ふ事をやつて見やうと思はず、自然に集めたるものから研究の結果を見出さうとして居る。

第三は兒童期が通り過ぎて仕舞ふて。大凡一通りの敎育を受けた位な學生。例へば師範學校の生徒位さう云ふものに向つて、自分の子供の時の事を想ひ起させ、前にどう云ふ經驗を覺えて居つた

とか、ぞう云ふ事が自分の記憶にはつきり遺つて居るとか、一人々々に想ひ出した事を言はすか、書かせる。さうしてそれに因つて追懷致しました結果を集めて、それを土臺にして子供の時の事を研究して見ると云ふ方法が第三になつて居る。

第四には、子供に就きまして親が手紙を書いて友達の處に知らしてやるとか、子供の樣子に就て親とか兄弟が雜誌に書いた事があるとか、凡て或一個の人が子供に就て私に他の人に知らすとか、公けに知らすとか云ふ事で書いた手紙を寄せ集めて子供の研究をやらうとか、これは親しい友達の間などは自分の子供に就ての記事を書いて知らすとか云ふやうな事もあり、或は相談して見ると云ふ事もありますから、極く事實が飾らずに有りの儘に書いてあると云ふ所から確かな紀事を得られますから、さう云ふものを集めて研究するのを第四の方法として居る。

第五には、日本などには餘りありませぬが、自分の事を自分自ら傳記としてかいたもの例へば福澤さんなどは自分の事を自分で思ひ出るまゝに自叙傳と云ふものを書いた。亞米利加などでフランクリンの自叙傳とか云ふやうに自分自ら自分の事を書き記したものがある。其自叙傳の中に在る兒童期の事柄を取調べて見ると研究の材料となる。日本などにした所で、昔の隨分エライ人達の傳記などに就ての記錄などもありますけれども、自分で以て記錄したものは甚だ少ない。それであるから日本ではさう云ふ類のものを集つむる事は六ケしいが、福澤さんなどの如き非常の人物の自傳も出來て居るから、斯う云ふものもだん〳〵得易く

なりませう。さうして學者とか豪傑とか實業家と云ふものゝ子供の時代の事を研究して見ますも、大變面白い事である。

第六の研究法は、文學とか美術などに關係のあります人が、子供と云ふものに就てはドウ云ふ考へを有つて居るか、ドウ云ふ風に文學の上に現はれて居るか、美術の上にはドウ云ふ風に現はれて居るかと云ふ事を取調べて研究するも一の方法で、さう云ふ事もやる。

第七は、現在子供を連れて來て、其子供に直接に此方が當つて身體の試驗をするとか、問を發して其子供の精神の作用を調べて見るとか、直接的の研究の方法と云ふものもあります。

第八には、詰り子供が小い時から段々發育しますに日誌のやうなものを拵へて、發育誌とか、精神發達史に就て子供の時の事を調べやうと云ふ方法もあります。

第九には、彼方此方から種々な問題を作つて置いて、其問に答へさせて見て、其結果を寄せ集めて比較して研究して見る。殊に師範學校の如き男も居れば女も居り、何方も同じやうな境遇の同じ位な程度の生徒などがありまする所ならば、餘程研究して見ても男女などを比較するに都合が宜い、男女を比較する事の出來る所では斯う云ふ類の研究法は面白い、之を第九として居る。

バアンスの研究の方法として說きてあるは、此九ケ條であります。これは只今御話致します通りに決して學問的の研究法ではありませぬ。重もに實際上に都合の宜いやうなさう云ふ研究の方法だけを申ましたのでございます。又其學問上からし

て研究致します方法の事は別段此所に必要はございませぬから、姑く實際上の方から見れば斯う云ふ種々の方面から研究して行く事の出來るものと云ふだけの御話をして置いて宜いと思ふ。

（以下次號）

ローランド夫人（つゞき）

鄭越生補譯

山嶽黨人は、更に進んで悉く反對黨殊にギロンド黨を撲滅し、以て己れ獨り全權を握らんとす、然れども正義亡びたるにあらず、自由地に落ちたるにあらず、之を以て、俄かに反對黨を糾彈し、訴追し、而して處罰せんか、反對黨員の抗議を惹き起し竟に人心自黨を去るの結果に到達せんも未だ知るべからず、されば速に其の目的を達せんには、一擧してキロンド黨員を屠り盡し、以て抗議の出づる處を梗塞し、人心兢々之を正義に願るの遑なく、突として事局を了し終らんに若かずとなし、即ち密に計を立てゝ曰く、反對黨員の議院にあるに乘じ、急に出でゝ之を襲殺し盡くすべし、四月十日の夜を期して之を實行せん。

時は維れ四月十日の夜、暮色漸く蒼然たるのとき、山嶽黨員はジャコビン倶樂部に集會し、囂々として議すること多時、竟にノートルダム寺院の警鐘を機として、隱謀を決行することゝなし、部伍を整へて、倶樂部を出發す、劍は握く人は殺氣

を帶ぶ、キロンド黨員の運命、此に至りて風前の燈火に似たり、恐らくは滅盡せずんば止まざるべし。

茲にジャコビン倶樂部の近隣に住めるキロンド黨員にルーベーと云ふものあり、此の夜その妻女は、圖らず、敵黨の恐るべき密計を探知し、直に事の急なるを、その良人に告ぐ、ルーベー蒼惶措く處を知らず、即ち警報を同黨員に與へんとし、先づペーチオンを訪ひ、具さに事の情を述べ、且つ勸告するに速に逃避すべきを以てす、ペーチオンは蓋しギロンド黨の領袖なり、冷然瞑目一語の答ふる所なし、既にして窓を開きて天を候ひ、徐ろに哂つて曰く

雨が降つて居ます、今夜は別條はございますまい、嗚呼何等の沈勇ぞや、凡そ士人に尊ぶところのものは。其の終を潔くすることなり、ペーチオン情報を得て竟にその逃避すべからざるを知り、自ら決して謂へらく逃ぐるも死し、逃げざるも死す、寧ろ事の迫るにあたり、縱容として死なんのみ、身は堂々たる大政黨の領袖なり、辱を道途に曝すが如き、死後の汚辱之より大なるはなしと、唯その降雨を以て云々したるもの、特にルーベーの好意に酬ひんため、之を云ひ做したるのみ、嗚呼何等の沈勇ぞや、凡そ大丈夫として、天下に立たんとするものは、常にしかく沈勇ならざるべからず。電光閃き爆聲耳を劈く、笑つて之を迎へんのみ、彼の人情の冷熱に、小人の毀譽にだに或は悅倒し或は股栗せんとするあるが如き、畢竟大事を語るに足らざるなり、語を寄す、世の婦人よ、漫りに細節小禮を以て、其の愛子を傷ふことを

すると止めよ、須らく大ならしむべし、之を豪大くして國家に寄附せよ、之れ殊に茲に余輩の切望し置くところなり。

是より先、事政府に聽ゆ、即ち此の夜陸軍大臣は非常訓令を與へ、市中を警戒し、彼等をして容易に手を下さしめず、加ふるに急雨風とともに來る、之を以て暴擧遂に行はれず、キロンド黨員の運命をして、一時を長うするを得しめたり。

翌日の議會に於て、圖らず密謀に關する問題沸起し、ギロンド黨員の熱心なる論辯により、山嶽黨員亦漸く動くところあり、竟に十二人の委員を擧げて、その密謀を調査することに決す、その調査進行の結果數名の山嶽黨員は、逮捕せられ、獄に投ぜらるゝに及びたれば、山嶽黨員一般の激昂云ふべからず、しばゝ威嚇的請願書を議院に提出し、調査委員會を解散し、嫌疑者を釋放すべきを強求せしが、五月二十七日に至り、その實行を強迫せんがために、大擧して議院を圍み、武器を携へて院内に闖入す。

之に至り正義は絶滅して不正は横行し、議院は神聖を失ひ人は自由を奪はる、是れ實に佛國革命の大回轉なり、佛國人民は正義を得んとして、却りて不正を得たりしなり、自由を得んとして、却りて壓制を得たりしなり、情熱の趨向するところ誠に奇にして妙ならずや。

（以下次號）

かゝる時さこそ命の惜しからめ
かねてなき身とおもひしらずば

ヴィクリトア女皇の傳（つゞき）

鄭越生補譯

女皇には、御幼年の頃より、母君の御教を、能く守り給ひ、苟くも、母君の御許しを、受けずしては、何事をもなし給はず、況んや、母君の御思召に反して、勝手に振舞ひ給ふやうの事などは、絶えて無かつたので御座りました、所謂敬を致して、其の母に事ふとは、斯ることを云ふのでございませう。

母侯爵夫人には、また嚴を持して、女皇に臨み給ひ、愛情に溺るゝの餘り、其の子の教育を、過るが如き、缺點に陷り給ふことなく、深く御愛女の御教養に留意せられ、殊に嚴重に、御管督をなされましたのでございます。

さながらに、女皇の麗はしく御天性は、斯くの如き母君の教育的御訓練により、すゝ〳〵其の光輝を發せられ、御幼年ながらも、當時に於て、既に意志ある御生活を遊ばし給ふので御座ります、是は其の一例でありますが、或日女皇には、市中を御散歩の砌り、或る小間物屋にて、痛く御心にかなひたる玩具を、御覽あそばしまして、價を問ひ給ひしに、生憎にも、此の時女皇の有し給ひし御懷中は、それを購ふに足らなんだので、如何にせんかと、御心配氣にいらせられたので、店主は揉み手に愛嬌を撒き出しつゝ、女皇の御傍にと立ち寄り奉り、

御氣に召しましたなら、何卒御買ひ上げくださいませ、御代金は何時にても、御都合のよろしき時に、頂戴いたします、

と申上げますと、女皇には御首を左右に打ち振り給ひて、

いや〳〵、代金を持ち來る迄は、品物は預かり置くやうに、

と仰せられ、御歸りあそばしました、かくて女皇には其の夜、母君に乞ひ給ひ、翌朝午前七時、いそ〳〵として、前日の店舗に入り、彼の玩具を御購めになりました、

嗚呼誠に嚴格なる御心根なり、御幼年ながらも母君に許され給ひし範圍を超へては、縱に一錢たりとも使用し給はずとの御事を、深く心得給ふ、誠に嚴格なる有り難き御心なり。

余は女皇の御小傳を記し奉りて、此に至り暫らく筆を收めて、家庭教育の良否が、如何に兒童に絶大なる感化を與ふるかを絶叫し、現に子供を有し、或は將來に於て、必然に子供を有せんとする世の婦人に向ひて注意を乞はんがために、一小演說を試みざるを得ず、乞ふ諸君亦暫らく座を正して余の云ふ所を聽け。

婦人諸君……愛兒の教養に任じ、又は任せんとする婦人諸君……家庭教育の必要なることは今更此に云ふを要せざる事で、諸君の十分熟知せられて居る事柄であらうと思ひます。

唯夫れ諸君が、十分に其の必要を了解せられて居らるゝのであることは、決して疑はざる事でありますが、諸君の實行が、諸君の了解せられて居る事柄と、一致して居るや、否や、即ち諸君が實行は、諸君の智識と合一して居るや否や更に之を精言すれば、諸君は家庭に於て、其愛兒を教養せんとするにあたり、絶へず教育的成

案により、教育的行動をなしつゝあるか、余は遺憾ながら否……多の人、多くの場合に於て否……と斷言せざるを得ず、故英國女皇陛下の母君が、女皇を教養したりし如き、嚴にして秩序ある家庭教育は、殆んど現今之を我國に於て目擊するを得ず、吾人は不幸にして、古武士教育に於て嚴格なる家庭教育の實例を聽くのみ、今や地を掃つて之を求むべからず、空しく遠き大國の家庭に欽羨の情を表せざるを得んのである諸君余を目して、徒らに自國を誣ふるものとなすなかれ、歸納上止を得ず涙を揮つて、しかく斷定したのである。

婦人諸君……理に敏き本邦婦人諸君……諸君は何故に獨り家庭教育に於てのみ、怜悧ならざること此の如く甚だしきや。

凡そ知的の判斷を駈りて盲動をなさしむるものは情感なり、情感が人の知性を盲目たらしむる場合甚だ少からず、是を以て知的の判斷をして其正鵠を過らざらしめ、之を正當に實現せしめんためには、先づ情感の其間に錯入するを避くるを要す。

本邦婦人が此くの如く家庭教育に於て殊に知行の合致を缺き、動もすれば非教育的言行を以て其の愛兒の上に加へんとするもの、畢竟右理法により全く情感のために、其の知性を滅殺せられたるの結果、知らず識らず、此に至りたるものと認めねばならぬ。

之を以て余は信ず本邦の家庭教育をして、能く教育的功果を奏せしめんためには、須く先づ家庭教育に任ずる婦人の愛情を、合理的に發動せ

しめ、殊に激烈なる盲目的愛情は、斷しで之を除却せしむるにあるを。

婦人諸君、願くは單なる溺愛を離れ、沈思冷靜其の愛兒を教養せよ。此くの如くせば家庭教育に於て善良の効果を奏すること、火を觀るより明にして、而して諸君の愛兒は、他日意志あり秩序ある生活を遂ゞるを得べきなり。

若し然らずして愛情に溺れて、知的の判斷を沒却するときは、諸君の愛兒は、他日不從順、不規律、懶惰、放縱の惡德に陷り、遂に不幸暗黑なる生活を爲すに至らん、注意せざる可らず。

終りに臨み、殊に諸君に贈るに好箇の一言を以てせん、曰く愛子には旅行をさせよ、是れなり此の一言之を玩味せば、家庭教育の眞義以て解悟せらるゝを得べし、蓋し深く愛するは先づ其の盲目的愛情を除去するにありとの意味は、嚴然として右一言の内に道破し盡されたればなり。

思はず横道に入り込みで相濟みません、是より更に女皇の本傳に立ち戻りて記し奉りませう。

女皇御幼年の御學問は、先づ母君親ら之に當りたまひ、やがてレーゼン男爵夫人、ヂョーヂ、ダブキス氏など、交々希臘語及び羅甸語を教授し奉りました、此時の事でありましたが母君には例の如く、御管督にと其の教授室に入らせられまして、レーゼン男爵夫人に此の日の御樣子を御尋ねになりました、生憎此の日は女皇に於て、少々御不勉強なされた日でありましたので、男爵夫人は

一度御惡戯をなさいました

と御答へ申しますと、女皇には男爵夫人の肱を搖

ぶりて

御前は忘れたのか、一度ではない二度であつた、と仰せられました、如何にも御正直に渡らせらるゝことで、苟くも母君を欺き奉らぬといふ御思召、試に結構な次第でございます。　（以下次號）

いまもかも咲き匂ふらん橘の
こじまのさきの山吹のはな

說林

兒童の道德的訓練（三）

黑田定治

命令の遵奉に伴ふて賞罰の制裁あり賞は兒童の快感を高めて其の良行を奬勵せんとするに在り罰は兒童が命令を忘れ或はこれに抵抗するときに苦痛を與へてこれに從順を强ゆる消極的手段なりとす。

古來賞罰に關して學者其の說を異にし或は其の無効有害を說くものあり或は其の効力を說くもの

ありと雖もこれを兒童一般の性質に顧みるも賞罰は決して無効有害のものにはあらずもし賞罰に道德的弊害ありといはゞ是れ賞罰其のものゝ上に存するにあらずして其の方法の上に存すといへるワイツの說に我等は同意するなり。

實際賞罰には幾多の種類あり幾多の度合あり其の種類と度合によりては或は弊害を生ずべければ父母又は敎師は如何なる場合に如何なる種類のものを取り如何なる度合に於てこれをなすべきかを決定することに深く注意するところなかるべからず。

實際賞にも罰にも種々あれども其の內にても兒童の道德の自然的感情に訴ふるものは賞讃と叱責なりとす賞讃と叱責は其の性質に於ても其の結果に於ても道德的なればこれを親權又は敎權執行上の道德的制裁なりと稱することを得べし、然れども兒童は只此の道德的制裁によりてのみ從順となるものにあらざれば更に賞與體罰のごとき物質的制裁を加へて其の權を確定するの必要を生するに至るなり而して此の物質的制裁が道德的制裁を强むるに必要なるだけの限界に止まらずして尙これを越へて行ふときは不道德的となり壓制的となるなり物質的賞罰は一層深く注意するところなかるべからざるなり。

賞讃は兒童の効績を認むることにして兒童はこれによりて快樂を感ずるのみならず兒童は日々の經驗によりて自己の安全幸福は父母敎師等の賞讃を得るに賴ること甚だ大なるを知りて益々これを得んとするに至るものなり。

實に親切なる面貌慈愛を含める眼容と雖ども兒

童の精神を鼓舞し善に向つて進ませしむるに足るものなり況んや自己が敬愛せる父母教師の口より出づる賞讃の効力の大なるものあるや素より明らかなり只僅かに「可なり可なり」「然り然り」のごときの簡單なる讃詞も非常なる効力を兒童の心情の上に及ぼし得るは吾人の經驗これを證して餘りあるべし。

兒童が父母教師の賞讃を得んとするは兒童に取りてはまことに自然にしてしかも正當なるなり兒童は身體上の事即ち衣食住等につきて他人の補助を待たざるべからざるがごとく智德上の事も亦他人に依賴せざるを得ざるなり幼時に在りては兒童は自己の言行の善惡是非につきて自ら獨立の判斷をなすこと能はずして常に他人に依賴して其の評價を待つものなりさればロックが說きしごとく兒童が自から判斷し得るまでは他人の賞讃に兒童のために安全なる嚮導にして且つ奬勵となるものなり他人の賞讃を得んがためには必ず幾分かは他人に對して尊敬の念を有せざるを得ざるべく且つ又自己が如何に行爲せば他人を喜ばし或は他人の氣を損ずる等自から顧みて謹しむところあるべければなり。

然れども賞讃の眞正の價値を計らずしてみだりにこれを得んとするに至れば道德上尤もいやしむべきものゝ一にして其の結果は兒童をして價値なき事を誇り自己よりまさるものを嫉み不幸のものをも凌き劣者をも駕し其の極俗人俗物の賞讃をも渴望し遂には獨立の精神を失ひ只他人の評價によりてのみ事を計らんとするの惡習慣を作り全く其の性質を腐敗せしむるに至らん然ども父母教師

の如き長上者の賞讃の價値を了解してこれを得んと務むるは兒童の心意を高尚にして道德上有効のものたり。

されば父母教師は其の賞讃をみだりにして單に賞讃を得んがために行爲するに至らしむることを防がざるべからず父母教師の賞讃は素より寛大にして偏頗なきを要するもしかも又嚴正にして惜むところなからざるべからず父母教師は兒童の善行を見て不思議なりと怪しむが如き有樣にて賞讃すべからず惡行は普通にして善行は稀なるが常なりとするが如き感わらしむべからず世の父母教師の中には兒童の善行を見て「汝がこれをなし得たるか」と驚き怪しめる態度を以てするもの尠からず謹しまざるべからざるなり。

物質的賞與は其の賞品の性質と兒童の性質とによりて下等の情に訴ふることわるものなり兒童の性質利を得るに強きときは唯其の賞品の實價のみを重んじてこれを得んことを務め利益心を刺戟するのみに止まり道德上の義務法則の念を養成することなかるべしされば賞與するに當りては深く注意を加へて只父母教師の賞讃即道德的制裁を强むるだけの範圍に止めざるべからず。

賞品は兒童の生長するに從ひ其種類を變じ且つ之を賞與する度數を減せざるべからず菓子玩具等は幼兒に適するも稍年齡の長せるものには適せざるべし學齡兒童には其の平素の勤勉品行を査定してこれを表旌し且つこれを將來に持續せしめんが爲めには適當なる書籍教具を與ふるは可なるべく金錢を賞與するは貪慾心を刺戟するに止まりて毫も益なければ全然廢すべきものと信ず又兒童の善

行の賞として土曜日又は日曜日に父母教師が兒童を同伴して動物園に趣き博物館を見或は近郊に散歩を試むるがごときは最も適當の褒美ならん。か。

女子の特性を發展せしむべし

澪生

稀に除外例として、筋骨逞しき女性なきに非ざれど概して骨格を以て論ずれば、女性は一般に男性に比較すべくもあらず、時に板額巴御前の類なきに非ざれど、其體力を以て論ずれば、女性は決して男性の對敵に非ず、幽邃深遠の智識を以て比較すれば、今古東西を通じて概して女性は男性に及ばざる觀なきに非ず、果斷敢行の意志に於て比較すれば、女性は亦概して歩を男性に讓るとあるは事實なり。約言すれば女性は男性に比して、纖弱なり、溫和なり、弱く見ゆるなり、脆く見ゆるなり、然り、女性は果して眞に斯の如く脆く且弱きものなるか。

暴戾酷薄の君主も、下情を汲みし夫人のおとなしき諫言によりて、慈仁敦厚の君主と改まりし例あり頑迷殘忍の重罪の再三犯者すら、出獄の後、一朝家庭を造りて頓悟改悛し、全く其性格を變じて敦厚の人となりし例あるに非らずや。然らば即ち女性は、強き男性中の最も強情冷酷なるをすら醇化せしむる一種の力あるものなり。

やさしき姉の激勵によりて、平生優柔不斷の弟が敢然として永き戰爭に從事して雄々しく敵鋒に仆れしものあり、なつかしき母を見棄はむ爲に、單身敵の哨兵線を潜りて暴風雨にまきれて英吉利

海峽を渡ぎ渡らひとせし兵士ありしに非ずや。女性は斯の如く優柔なる男性をして勇敢壯烈ならしむる一種の力あるものなり。

げに女性は、果して弱きものに非ず、强き男性を左右する力あるなり、即ち男性よりも一層强き處あるなり。

何物ぞ、女性をして玄かく有力のものならしむるものは、曰く唯一つあるのみ、高尚なる感情の强きと之なり、慈愛と同情とに充ち滿ちたる感情之なりこれ女性の特性なり。

確かに女性の體格は纖弱なり、體格の纖弱は特に此特性の發達に適したるなり、此特性あるが爲に、女性は凡て脆く見ゆるなり、弱く見ゆるなり、而かも此脆く弱く見ゆる處は、これ女性の最も强き力ある處、最も高貴なる特性の存する處に非ざるか、抑亦總ての人間の最も高貴なる特性に非ざるか。

之を個人の發達に見れば、其幼少の年頃には、行動は殆んど全く下劣の感情に制せられ、漸次年長けて分別思慮を起し理屈に偏向し、所謂智の人となり決斷敢行を偏重する、所謂意志の人となり、涙少き一種寒冷なる人となる、更に齡を重ねて、世の荒波の加減を知りし人は、かたくなの理屈を脫して、人情を參酌し、優良高雅なる行動をなすを認むるに難からざるべし。

之を一世の社會に察するに、下級の矇昧無智の輩は、唯耳目の慾に追はれ劣情の爲に役せられ。常人にありては、劣情を制し、眞面目なる高尚なる人生に處せんとして、智の人となり、意志の人となり、若し夫れ、孔子、釋迦、基督の如き人々

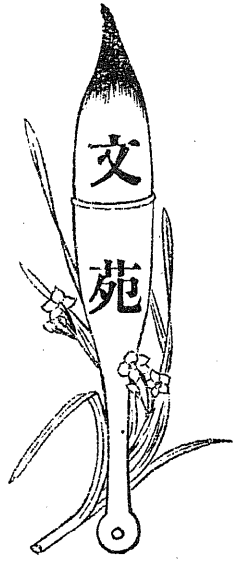
にありては、己が思ひのまゝに行動して、何の圭角もなく、かたくなるゝ處もなくして、道に合ふものといふべし、こは其行動が慈愛同情といふ高尚圓滿なる感情より發露せしものなればなり。

更に之を社會の歷史につきて考ふるに亦然り、野蠻未開の時代は劣情の支配する時代たりしなり續ぎて來りて、智の時代、意志の時代となりしなり、されど、智識の支配はあまりに理屈づめに過ぎ、意志の支配はあまりに冷酷に傾き過ぐるに至る、人間の天性は何時までも、斯かる理屈つぽき冷やかなる生活に滿足するものに非ざるべし、然らば人類をして圓滿なる幸福なる理想の社會を造らしむるものはそも何物ぞ、いふまでもなく唯暖かき慈愛と同情とにあるのみ、故に曰く、將に來るべき時代は高尚なる感情の時代たるべきなりと、何となれば こは發達進歩の自然の順程なればなり、現今の如き優勝劣敗の著しき世の中にても、赤十字社の成れるあり、萬國平和會議の云々せらるゝあるが如きは、來るべき時代の萠芽にあらざるか。

此將に來るべき時代の特性たる慈愛と同情とは即ち女性が現在に有する特性なり。

是に於てか、女性の教育に關して、妻となり母となるべき穩當なる養成の方針を採るものにありては勿論のこと、よしや、既に歐米諸國、殊に亞米利加に於て著しく存せる如くに、今後の我邦に於て、社會の經濟上の事情が家庭を構ふるを許ざるに至り、餘儀なく獨居を以て終るべき女性の多く出でんことを憂ひて、嚴然男性と對峙せしめて、女

性の獨立を圖る方針をとるにもせよ、以上の所論によりて、毫も殊更に其特性を殺ぎ、之を曲げて男性に似たる女性を養成する必要なきと明白にして、女性の教育の眼目は確かに、其特性を發展するに在るべきを信ずるものなり。



寫眞

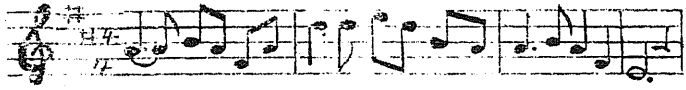
和歌子

世の開くるにしたがひ、さまゝのたゝときもの、たよりよきものゝいでくるは、いとうれしきことになん。寫眞もこのひとつなり。このものよ。

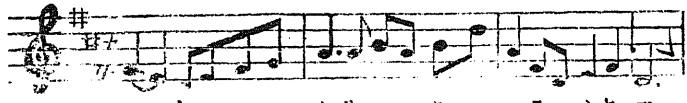
其名の如く、人にまれ、景色にまれ、何にまれ、眞を寫すものにしあれば、こを見るは、其實物を見るに同じ。居ながらにして、外國の景色をながめ、千里の外の友とも語るを得るは、げに此寫眞の德とこそおぼゆれ。」寫眞として、うれしからぬはなけれども、わきて、遠くへだゝれる友の許よりおこせたる、はらからなどの、伯母上がり行きてのかへるさうつしつ、などたのしきことゞもかきそへておこせたる、いづれも物語るこゝちのせられてうれし。但しなき人のは、打ち見るごとに、涙の種なり。されども、これあればこそ、今もなほありし俤は忍ばるれ。と、思ふに、またうれしきものといひつべくや。」おのれ、去年の春なりき。寫眞して故郷なる家に送りぬ。そのをりの返事に「よくもこえにけるかな。すこやかなるおもゝち物

近江八景

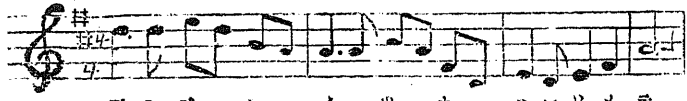
多梅稚作曲



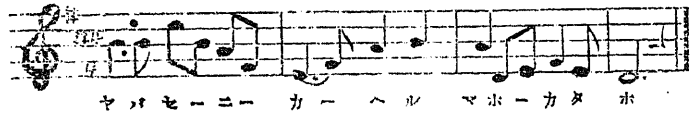
一、マーツーガー　カラサーキー　シグルレバ
二、セーたーの　ゆふばーえー　みぬのかれ



ユーキーニー　ナリユークー　ヒラーノヤマ
いしやーまー　でーらーの　ゆふーづきは



アハツーハー　イーツーカー　ハレソメテ
かたたーにー　おーつーるー　かりがれの



ヤハセーニー　カーヘル　マホーカタホ
かげさーへー　みーよと　てらーすなり

八景

新保磐次

松が唐崎しぐるれば
雪に成行く比良の山
粟津はいつか晴初めて
矢走に歸る眞帆片帆」
瀬田の夕映三井の鐘
石山寺の夕月は
堅田に落つる雁金の
影さへ見よと照すなり』

（轉載を禁ず）

もいひいでぬべきこゝちす。」とて母上の、よろこばせたまひしことありき。されば われらのごとく、父母の許をはなれて、遠きに在る身には、〝寫眞こそ孝のたすけをばすれ。〟と思ふに、いよ〳〵そのたふとさのまさりてなん。さてまた去年のくれ、姉上安らかに女子をあげたまひぬ。おのれにはは じめての姪なれば、とびたつばかりのうれしさ何にかたとへん。春子となづけつ、なをさくにつけ、あはれつばさあらんには、一かけり春子のかはを、なをねがふもせんかたなし。さるをある日の朝なりき。一聲高く郵便と投げいれたるものあり。たれのふみぞと見るに、あなうれし。春子の寫眞なりけり。そのをりのうれしさ、拙き筆のつくすべくもあらざりき。これこそ我姪よ。と思ふに、はなちもやらず。其後もこの寫眞は、常に机上にありて、われをなぐさめぬ。ふみよみて倦みつるをりも、こを見れば、こゝちさはやぐぞあやしき。あはれこのうれしさも、世に寫眞といふものあればこそとたふとし。けふしも、青森なる友の許より、寫眞しつればちが〳〵に送らん。といひおこせたるに、待遠におぼゆるあまり、かくはこのものゝうれしさをものしつ。

春の野邊　　さくら

雪かとまがふ盛のさくら
一ひら二ひら散り來る野邊に
萌え出る若草また柔かく
色わざやかに花咲きみてり
櫻の木かけに若草しきて
はらから二人花つみ遊ぶ

姉よこの花何はなゝるそ
その花知らすやそは菫はな
うつくしき色おもしろきすがた
いともめてたくいともうるはし
紫にほふこのすみれ花
來れ姉よ蓮華を摘まん
れんげを摘みて花束とせん
否や弟その花のへに
眠る小てふの夢驚かん
小川の流れ水ゆるやかに
蓮華にすみれ花咲き亂れ
織りなす錦を蓐となして
はらから遊ふこの春の野邊

故郷の春

すみれ

雲ともまかふ櫻はな　丹生の島根に咲き亂れ
戀しき友とその下に　日の暮るゝをも知ざりき
春潮寄するいりうみの　磯邊につとふ魚あまた
終日釣をたれし日の　其樂しさの忘られぬ
大岩山に霞たち　いろまた淡き青野原
蕨を摘むもおもしろく　母に侍りしこともあり
楊柳風にうちなびき　眺めもあかぬ蘭川
ゆるき流に袖ひちて　鮎を捕へしこともあり

つゝじの花

吾妻

みどりまたゝる　樹々の蔭にも、
胸のおもひは　なほ消えやらで、
くれないもゆる　つゝじの花よ、

何をかふかく　おもひなやめる。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

熟きこゝろを　さまさんとてか

池の汀に　影をひたせど

日の光さへ　照りそひぬれば

いよ〳〵赤き　花のいろかな

＊　＊　＊　＊　＊　＊

別れし人を懷ひて　東くめ子

惜しみし春の　くれ行けば、

庭の木陰も　くらきまで、

しけるわか葉と　わかおもひ、

いつれかふかき　くらべ見ん。

夕飯の時　みやこ

今日の業をば　成しをへて、

かへり來ましゝ　我せこと、

むかふ夕飯の　むしろこそ、

嬉しきものゝ　きわみなれ。

＊　＊　＊　＊　＊　＊

けふありしこと　のたまへば、

われもきこえて　かにかくに、

なぐさめられつ　なぐさむる、

夕飯の時こそ　樂しけれ。

神樂　小林つね子

里のやしろに　はふり子の

かなづる袖の　まひの手に

神代のむかし　しのばれて

かぐらのわざの　たふとしや

夢に亡友を見て　聲水生

むすびてしもとの契りのふかければ

夢路にひとの通ひきぬらん。

春の夜亡友を思ふ　ひさ子

烏羽玉のよはのあらしにさくら花
　ちりてかへらぬ君をしそ思ふ

糸櫻の風にそよげるを見て　同　人

ふくどなき風さへそれとしられけり
　したりさくらの糸みだれつゝ

春夜江戸川に逍遙して　同　人

なかれ江のながれもあへず春の夜の
　かけおぼろにもよどむ月かな

櫻の雪あられとちる夕　同　人

ちる花をおしむにさそふ春風は
　我庭のみとかこだれにけり

一日田端あたりを散歩して　同　人

せきわくる苗代水を見てそしる
　けにいそがしきしづが世渡り

途上所見　なにがし

花さける垣根つたひにとぶ蝶を
　手にもとらんと追ふわらはかな

とぶ蝶の翅みだれて春風に
　鈴菜すゝしろ花ちりにけり

魚をうる翁もかごをおろしおきて
　花の木かげに花を見るかな

鎌倉山にて　胡蝶

武士の血しほそゝぎし此岡に
　いろもゆかしき菫さきけり

向島にて雨にあひて　同　人

同しくば身をばぬらさん櫻木の
　花下かげに雨やどりして

庭の山吹　同　人

七重八重と云ひし昔はしのばるゝ
雨にそぼてる庭の山吹

臺灣の昔話

町田則文

第四　神、佛、仙人及び妖怪に關する談話

一、盜賊に殺されし亡魂の物語をせし話。
二、明の冷于冰といふ人、學を好み、試に應して上進し、後、仙法を學び、百年にして老ひざりしと云ふ話。
三、李悞といふもの、初め貧にして、乞食なりしが、後福德神の掌どる山中の銀を授かり、大富となりしといふ話。
四、哪托太子といふ神は小兒を守護するといふ話。
五、丁七娘といへる女あり、繼母の惡む所となり、日々山に入りて、薪を採らしめらる、此山に薪なくして、猛虎多かりければ、九天玄女といふ仙女之を救ひ、鳳凰山金剛洞といふに入り、仙術を學ばしめしが、後繼母は惡疫にかゝりて死せしといふ話。
六、一古寺中雄鷄死後人に生れしといふ話。
七、人身半面の妖怪ありしといふ話。
八、人身牛面の妖怪あり人を食ひしといふ話。
九、馬精の妖怪あり、口炎を吐き、手に一刀を揮ひしといふ話。

右の談話は人類學上人類の思想を判定するの資料としては、之を細論するの必要なかるべし。中につき教訓的の意味を含むの多少を比較すれば左の如し。

教訓的の意味を含める話	九分一
純粹なる神話怪談	九分八

中に就き哪托太子の話は、三人同件なるは、臺灣土人が宗教思想の幼時より、涵養せらるゝを知るに足らんか。

第五　植物に關する談話

一、錫口及上陂頭各所の竹に米を生ぜし話。
二、泉州惠安縣に大松樹あり樹根に地瓜の產ぜし話。

右は僅々二件にして共に愛笑的の事實に係る。

第六　金石及び自然の現象に關する話。

一、劍潭の底に一劍あり、夜々陰雨の時劍氣上騰せりといふ話。
二、金源寺といふ古寺の話。
三、某山邊に金盾ありとの話。
四、一點滴三百斤の重さのある雨降りしといふ話。
五、一點滴の雨の爲に人は壓死せられしといふ話。
六、一聲の雷鳴天下に響しといふ話。
七、洗金の山に大石あり、石中金闌花を生ぜしといふ話。
八、山に一粒の自然金ありとの話。

右總て八件亦皆愛笑的の事實にかゝる中に就き、劍潭の事實は一の歷史的事實として、淡水廳志の如きに記しあり、劍潭夜光といへる名と共に、人口に膾炙するものなれども、要するに、愛笑的事實の一たるを免かれざるべし。

上來記し來る談話、乃ち古談の性質を案ずるに、臺灣に於ける特發の事實ならんと思はるゝもの稀にして、皆支那に於ける古談の性質ならざるはなし、唯生蕃人を殺すの事實話のみ、是れ固支那本土人の想像せざる所にして、蓋し臺灣特發の古談ともいふべき歟、又水牛の支那本土に在りて、臺灣の革を食ひしといふは、支那人が移殖の歷史と聯想せらるゝ特發の談話なるべくして、元支那的古談の性質なれども多少臺灣移殖の歷史ありて後、此古談の生ぜし事を推知せらる。

（一）　教訓的の意味を有する古談、　三八件

（二）教訓的の意味を有せざる古談　五四件、にして教訓的古談は非教訓的古談の殆ど百に對する四十一に過ぎず、以て其家庭に於ける教育の一斑を知るべきなり。

最後に尙一言すべきは古談、乃ち昔話なるもの、常欵なく、內地に於ては殆家庭教育の主要なる位地を占むると同一ならざる實を表するを見るべし、夫の內地に於ける「桃太郎」の如き「花咲爺」の如き、「かち〳〵山」の如き、「猿蟹合戰」の如きを見よ、蝦夷かすむ奧羽の北端より、筑紫の南端に到るまで、多少技藝の變化あれども、全く同欵に行はれ、家々の兒童が先づ耳に社會の事相を知り得るは此古談なるに、臺灣には各人各其聞く所の事實を異にし、三十九人の生徒中同一古談を記したるは僅々八件に過ぎず、乃ち

一、孔融四歲にして梨を兄に讓りし話。　二人同件
二、吳猛親の爲に自身を蚊に蝕ましめし話。　四人同件
三、鼠の猫を捉へて竹桿に上りし話。　二人同件
四、鷄と鴨と戰ひし話。　二人同件
五、蛇の田螺を食ひし話。　二人同件
六、金姑の牧羊中夫を想ふ話。　二人同件
七、近視の人、田螺と鷄屎と誤りし話。　二人同件
八、哪托太子は小兒の神なりとの話。　二人同件

にして、最も多きは四人同件なるのみ、乃ち臺灣の家庭に行はるゝ談話は畢竟偶然の事實にして家庭教育の必須要件として認られず、隨て常欵の談話の性質なしといふべきか。（完）

幼兒の工夫

其一（てふ〳〵の譜）

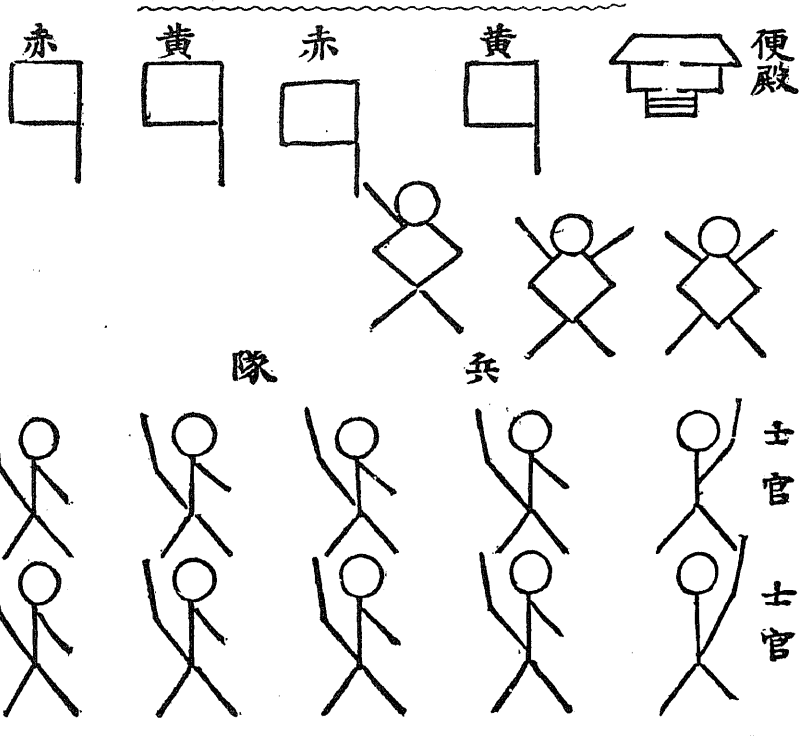
こどもこども　なにをみてよろこぶ
かけつこするのを　みてよろこぶ

あかはたもつて　しろはたもつて
ばんざい〳〵　日本ばんざい

其二

こどもこども　なにをみてよろこぶ
へーたいごつこをするのを　みてよろこぶ
てつぽーをもつて　さーべるさげて
ぽーしをかぶつて　ぷぷぷぷぷぷぷぷぷー

右の歌は、幼兒らが、自造り出して、歌ひしものにして、この歌に基づきて、金の環一と木の箸數本とを與へたるに、自競走と、兵隊とを工夫し出したるものなりとのことにて、本會總會の節華族女學校幼稚園より、幼兒の成績品として出品せられたるものなり。



幼兒の言行

羽田　晴

五年餘の男兒他の兒とこまを弄びて、かげことをなす甲兒の曰く「わたしが勝てば百萬圓おくれ」乙兒よしと答ふ直に甲兒の側らに至りて百萬圓もらひて何にするぞと問ひしに一寸考へ「百萬圓はおかーさんにやる殘りはおしることお菓子を買ふのです。

或る貧兒の集まる所にて日々兒をしてふき掃除せしめ草履も上下を別にせり或る日高貴の人々數多參り給へるに靴のまゝにて上りたり一兒早くも見出して「先生あの人は靴で上りましたよ。

或日三年以上四年までの兒と遊び居りしに其中の一人吾に向ひて曰うに「先生うちの父さんと母さんとけんかすればどちらが强いでしょう」吾は「父さんと母さんはけんかなどするものですか」と答へけるにその言葉を聞きて方々より馳せ來りて異口同音に「私の家でもしますよ一度は母さんがまけましたよ。

或日新入兒にさとすにゑらくなれとて戰にいくかなとすかし居りしに同じ新入の一女兒曰く「私はゑらいから何になるのです」余の答も待たで姉分の女兒走り出で「あなたはいくさのおかみさんですねー先生

鳥取の童謠

鳥取　永井幸次

♪調

2/4	1.1 1.1 1	1.1 1.1 1	1 2.1	6.6 6	0.1 3.2
	ニニニニ	ニニニニ	ニニ	ニニ	ニニニニ
	スズメノ	ヨリヤヒ	チウチウ	パイパイ	ノヨヒニ

1.1 2.1	2.1 6.6	6	0	1.1 1.1	11111·
ヨウタモ	オヨルナヨ			オヨラバハジメカラ	

2.1 6.6	6	0
ヨランガエ		

雀のよりやひ　チウチウ　バイバイ　加ハリテモノ意

これによりても　おこるなよ　加ハラヌカヨイノ意

おこらば初めから　よらんがえ

この謠は子供(主に女兒)の集り、鬼ごつこして遊ばんとするにあたり、まづ鬼を定むる必要あり、依りて子供は、各自の手の掌に袖を乘せ、圓形を造り、一人が手先にて　この拍子に合せつゝ　各々の袖の上を打つ、一度この歌を歌ひ終りたると同時に、打たれたる者は　鬼たるを免るゝなり。人數丈この歌をくり返し歌ひて、誰が一人、最後まで殘る。殘りたるものが鬼となり　他は皆人となりて鬼ごつこが始まる中々おもしろし。

盛岡地方の手毬歌お手玉歌

盛岡　山村　材美

一、大晦日大晦日三十日の晩に、一夜源之助が、かるたに負けた負けた負けたは、幾許ほど負けた、金が三兩に、小袖が七ッ、七ッ七ッは十四の事よ、おらも其時、十四でゐッた、おらが姉さん三人御座る、一人姉さん太鼓が上手、二人姉さん鼓が上手いッちよのが下谷に御座る、下谷一番、伊達者で御座る、五兩で帶買て三兩で紮けて、紮け目紮け目へ七總さげて、折り目、折り目へ口紅さして、今年始めて花見に出たら、寺の和尚に抱きとめられて、よしやれ、放しやれ、帶切らしやるな、帶の切れるは、厭いは無いが緣の切れたは結ばらぬ、

前で結んで後でゞて〆た所へ「いろは」と書いて、「いろは」子供たちや、伊勢伊勢參る、伊勢の長者の茶の木の下で七ッ小女郎が八ッ子を生んだ、產むにや產まれず、下すにや下りず向ふ通るは醫者ではないか、藥用なら袂に御座る、此を一服煎じて呑ましよ、虫も下れば、此の子も下りる、假令、其の子が女子であれば寺へのぼして學問させて、京へのぼして狂言さして、寺の和尚が道樂和尚で高き椽から突き落されて、鎌倉、落し、笄落し、御仙や、お仙や、お仙女郎、其方の挿したる笄は拾ふたか貰ふたか美くしや、美くしや拾ひも貰ひも、いたしません、お仙の針箱、あけて見たらば、雌鳥、雄鳥中よし、こよし、ひッひッしらッがい、ほうほう、ほらの貝御目出度や御盃

二、えじよさ、えじよさき、えじよさんどん、しのびはどん、さいだかどん、どんどと、えどがみさん、此處は船場の盛はどん、一や。二や。三や。四。五。六に。七、八、九ッ十、御白しろしろ白木屋の、お駒さん、才三さん、門には條八色男、一ッ御前に一ッちよ貸しました。

三、向ふ横町の御稻荷さんへ一寸拜んで、お仙の茶屋へ腰を掛けたら、澁茶を出して澁茶、よくよく、横目で見たらば土の團子か米の團子かおだんごだんご。

左の調査表は、鹿兒島縣師範學校教諭寺内穎氏より送附せられたるものにて、調査表につきての附說は 垂水小學校新納新哉氏の記されたるものなり。子供の思想界につきて頗る面白き事實を見るを得べし、

兒童心性智力感情調査表につき

一、村内兒童の男性と女性とは勿論海邊と山間との異なるに從ひ兒童の心性の傾向の多少異なるものあるを見るを得べし

一、村内中央の兒童の心性は擧がれる事項の多きを見て其の思想界の複雜にして多少の進歩せるものあるを見るに足るべし

一、村落學校の兒童心性の擧れる事項の少きは又た其思想界の單純にして狹隘なるを認め得べし

一、兒童の迷べる恐怖心を去り賢き人の外に恐きものなしなどの教訓を下す場合等に必要なる兒童の迷想を搜ぐるを得べし

一、過度に悲むの心身に及ぼす危險を說くには兒童が如何なる事を如何程に悲むべきかを穿つに於ては參考の資に供し得らるべし

一、智力の項目は凡て家庭教育の狀態を想像するを得べし

一、善き食物善き遊戯は之を奬勵し無上の人よし云はゞ天子樣と申し奉ることに導き又其の將來の希望の謬れるを說き正しきを興し父母は何れも共に重ずべきが如く在學四年の後尋常校を卒業する曉に此等の兒童の心性を比較し考査せんには教育上適良の成績を得べく又且學校教育の効果をも表彰するを得んか左に此の表を示さん

（甲號）

垂水尋常高等小學校 尋常科第一學年 新募兒童

男子兒童心性 智力感情調査表

受調者數	六九
最高年齢	一〇年 九月
最低年齢	六年 〇月
平均年齢	七年 一月

智力	自己の名を知る者	
智力	自己の姓を知る者	
智力	自己の年を知る者	
智力	自己の父の名を知る者	
智力	自己の母の名を知る者	
智力	左右を知る者	
智力	一より迄の計を知る者	三 迄 九
智力	十の方を知る者	
智力	字を書き得る者	
感情	最も悲しきことは何か	人の打たれとしたき 三
感情	最も怖しきことは何か	狐 二六
感情	最も好きの食物は何か	飯 一九
感情	最も面白き遊は何か	蹴毬 一〇
感情	此上なきよき人は何か	先生 一〇
感情	成長して何となるか考へ	農
感情	父云ふのことを何と云ふか母云ふのことは聞れくか	

四九	四九
五一	五一
六五	六五
六一	六一
五六	五六
六一	六一

	迄十	迄九	迄八	迄七	迄六	迄五	迄四
六九	五六						四

	し						な			
	守子	夢	とた打きるれ	るれ叱時たら	と在の父きの不母	くの赤時泣子	る見人泣時たをく	とた取馬きるりを	こせの犬きし死猫	とせの馬き！死豚
	一	一	一	一	一	二	一	二	二	三

	豚	馬	虎	狼	子獅	雷	人官	間人	蛇	牛	魂亡	犬
五〇	一	一	一	一	一	一	一	二	三	三	四	五

	魚章	魚	米	筍	水	橘甘	飯の米	子菓
四五	一	一	一	一	二	三	六	二

	馬	犬	作家	撲相	校學	倒將大	ゴ鬼	ロオ	打毬
三四	一	一	一	一	一	一	五	五	八

	臺鎮	達友	神	兄長	母祖	母叔	母父	母	査巡	人官	子天	父
四一	一	一	一	一	一	一	一	一	一	二	七	一三

	人き好	隊兵	生先	人
一三	一	一	三	八

	母	共母父	父
五五	二	一九	三五

五月の自然界

端午の節句が來て、男兒のある家には、幟や旗や冑や刀や槍や、鐘馗も、勇士人形なども、まつられて、青々とした菖蒲が香り高く軒端に飾られて、ちまき、柏餅、など製らるゝ頃になると、思ひ起すは。

養蠶のことである、殊に信濃上野下野群馬邊の人々は樂んで、桑摘を始めたであらふ。山城の宇治の邊では、名高き茶摘が始まつて、人々はさぞ忙はしいことであらふ、忙はしい中にも、能く勉めて後の暫しの間の休みには、どんな心持がするだらふ。自然の間に働き、自然の間に休ひは、樂いものである。

青き、白き、黃の　瓜類の種も、細き、長き、短き、大角豆類の種も　刀豆や、早小豆なども、ぱつ〳〵蒔かるゝであらふ。小さな種から、成長させて美しい花を咲かせ、豐かな實を結ばせる、園藝は樂いものである。

藤の花の細かき葉の間より長く垂れたる、躑躅の高く低く咲きみだれたる、牡丹の大なる花の軟らかき葉の間に開きたる、山吹の鮮かなる綠の莖に貫かれて黃金色に咲き匂へる、公孫樹の若葉の黃色なるに、松榧の深綠のいよ〳〵色まさる、人氣稀なる山里の自然界の光景は、殊に樂しいものである。

月の廿一二日頃の汐干には、松風涼しき濱邊に立つて、清らかなる波に足を洗はれながら貝拾ひ、際涯なき沖を行かふ白帆の見晴しなど、海邊

の眺望は一種ひろ〳〵とすが〳〵しき感を與ふるものである。

此樂は、大人も、子供も、男子も、女子も、共に樂むとが出來る、小供には小供相應に樂むやうに慣れしむるとが、後の爲に大事である。

殘りの花をたづねて、蜜蜂は、尙忙がはしげに働き、眞面目なる蟻は、怠らず貯蓄にはげみ。降る雨に、厭ひなく、づぶ濡れになつて、四十雀は、蟲をくわへて常綠樹の繁みの中に入り、暫くして出でゝ、此方の樫の木の枝にて身振して露ふりはらひ、又も彼方に飛んで行く、繁みの中の巢の內には、黃色の口を開いて待つ五つの雛があるからである。

此樂みは、大人も子供も共に見て樂むとが出來る、併し子供の心には、憐憫に富んだところもあり、大人が見て殘忍とするところもある、兎に角、何にか活動して居らねば滿足出來ぬ樣子が見ゆる、從つて通常の頑是なき子供は此雛を見たならば、如何するか、或は戲れに　或は可愛らしさに、動すれば殘忍の行をする、願くは、子供の時代から、小鳥が樂んで育てゝ居るといふことを知つて、それを傍觀して其中に樂を求むるやうに躾けたい。

全體、邦人は武勇の氣象が盛なる中に、やさしいところが多い、深山の奧の樵夫が脊負つた薪に櫻の花枝をかざして歸るとか、九尺二間の茅屋の窓下に缺徳利に楓の枝の挿されたるとか、中々やさしいものである、望月の、東の方、山の端より、青深く澄み渡りたる蒼穹にさし昇るに、足とめて見とるゝ人力車夫も少からず、咲き初めし山百合を刈り殘して歸る草刈乙女も少くはなし、しばらしき心地する。

唯折りとるといふことは、我手近におきたいといふ心で、感賞のあまりならむなれど、願くは據な

き場合の外は、常に少し隔でゝ眺望歡賞するやうにありたいものである。

人の品性の骨髓をなすものは、精神の傾向である、品性は又人の嗜好にも、大關係をもつて居る、傾向及び嗜好は、社會の事情、境遇、教育などによりて如何樣にも變られぬとはない、夫故に、自然界に對して、嗜好をもつ樣に、子供に心懸くるは、其一身の將來の爲のみでなく、それが即ち國家の爲であると思へる。殊に現在の社會の情況を見ても感ぜらるゝことが多くある。

（麼訶生稿）

「女といふものは」

女子といへば直に小人を聯想し、女といへばすぐ罪深ものと聯想せらるゝ以上は、婦人の地位所詮未だ甚高からずと知らざるべからず。現今女子教育の隆盛婦人社會の活動又こゝ十年前の比にあらず、然も一般社會の婦人社會に同情の薄きこと亦依然としてもとの如し。「女といふものは」なる一語は、社會が我婦人に向つて何か歎息の聲を發する時に當りて常に第一着に使用せらるゝ概括語なり。如何に無量の輕蔑の意味が此一語の中に含まるゝよ。「どれほど學問しても女といふものは」との語は、まことに屢々吾人の聞く所にあらずや。この不祥の一語、まさに以て今日の我婦人社會を概括し去る。この一語の存在せる以上は、永劫婦人の地位の上らざるものと知るべし。

女偏の字

奸、嫉、妬、怒、奴、妄、姦、佞、婬、婪、娼、妨、嬉、嫖、娼等、擧げ來れば、女と云ふ字を偏として出來たる文字の、如何に多くが、あらゆる不德の意義を顯はせることかな。支那人が女に對する思想の如何は、これによりても推知するに難

からざるなり。

（敬華生稿）

机邊餘錄

▲今日の社會が、婦人に向つての注文の數の多いも同時に、非難の數もまた、まことに多いが、男子に向つての注文非難と云ふものは、甚少ない。主婦としての今日の我婦人ははたしてそれほど不完全で、家長としての今日の我男子ははたしてそれほど完全にできているのであらうか。

▲嘗て、廢娼論者として有名なりし、某代議士がひそかに、賣女の衢に遊んだのを、友人に見つかつて、其言行の相反するを非難せられた時、其代議士が次の如くに答へたとか。『社會のためには、僕は、廢娼を主張するが、自分一人のためには、存娼の方が都合がよいのである』

世の中には、隨分かくの如き、廢娼論者に似た人か、澤山ある樣だ。

▲誰だつたか、こういふことを、云つた人がある。我邦の婦人と、眞實に中正な交際をするのは、まことに、六かしい。一體が、疑深くつて、己惚が強くつて、おまけに、怒つぽいとさているのであるから、堪つたものでない。男子から少し深切にして、やさしくして、そして、洒落にして、打明けて、交際して行くと、婦人の方で嫌、もう、それを、變に取つて仕舞つて、何だか妙に疑ぐつて來る。これでは、いけないと思つて、今度は、男子も、用心してかゝつて、極めて淡泊と、無頓着に、諸事萬端一切構はず、餘計な口も利かぬ樣にしていると、さあ今度は、酷い。男子は、輕薄だとか、横柄だとか、妙に氣取つてるとか頓とあらゆる惡口の批評を受けるに至るのだと。

▲つねづね親密に交際してる男同士では、こゝちから訪問して行つた時分に、向の方では、妻君も一所に出て來て、饗應てくれる樣であると、新

密の情が、一層まさしてくるものだ。

▲また、饗應を、受けるにしても、親密の間柄では下手な料理屋から、とりよせられた御馳走よりも、わが親愛な友の妻君が、ご自身で、料理せられたのを出して貰らた方が、どれほど嬉しく感じるかも知れない。

▲夫かと云つて、料理の道も、一向に御心得なく、客が來たからつて、急にどこかで出版の何々料理法大全などゝ云ふ安價の書物を引張り出して、今まで一度も、お慣へになつたご經驗のないのも構はず、活字の間違なども、委細御頓着これなく、如何御手料理だからつて、こんな具合で以つておだしになられると、夫こそ、まことに、有難迷惑の場合もあるものだ。

▲いかめしき洋服男の、併も、肩の邊から、背中へかけて、一面にふけの粉が散らばつて、一見した所、恰白灰をふり撒いた樣なのに、よく出遇ふが、時としては、フロックコートの襟裝の褶の邊に、埃が山の樣に堆積して居るのを見ることも、少くない、何がシミツタレだと云つて、之れほどシミツタレに見ゆることは、まづあるまい。

▲それでも、これが二十歳前後で、まだ細君も持たない血氣の若者でもあつて見れば、別段氣にも、とめないのだが、もー四十前後で、一廉の紳士であつて見ると、その紳士の風采は、とに角、第一家を治ひる夫人の氣心が見透いて、こんな細君を持たれた男が寧氣の毒の樣に思はれる。

▲交際上、最心得なければならぬ、秘訣は、第一他人の惡口を云はぬことである。とかく人といふものは、他人の惡口をいひたがるもので、これがまた、妙に愉快に感ずる。甲乙二人よる、殊に他に話の種がない、すると直内の噂が出る、それがいゝ噂といふことがまことに少い。謂はないでも宜のに惡口を云ふ。甲乙に取つて、丙が別に恩怨

あるにあらず、惡口をいふに依つて、甲乙共に利する所もあるでない。然も其人の缺點を擧げて、滔々と咄し合ふ。壁に耳ある譬、何時となしに、これが丙の耳に入る。そこで遂には、恩怨もなかつた丙と、一生癒すべからざる恩情の衝突となつて仕舞ふのである。

▲どんな缺點多人でも、どこかに取り所があるものだから、人の噂をするならば、どこかその美點をさがし出して、噂をするのが日々交際上に心得るべき秘訣である。（つゞく）　（擊水生稿）

見聞錄

●去る月の上旬の或日、新橋停車場のプラットホームに見送りたる人々は林の如くに立ち並んで居る、滊笛の合圖で愈滊車がゆるぎ始めた時に人々の視線は盡く其送らるゝ老先生の方に向うて何れも名殘惜しげに出來る丈列車に近寄りて見送つて居る、其長き列の背後に殆んど人目につかぬ處にて悄然として行儀正しく見送つて居る十二三の小學兒童があつたとつ國の旅路に向ふ老先生も、若し御目に止まつたならば、さぞ頼もしきとと感せられたであらふ。

●同じ月の末、我近隣に第七師團の補充兵として北海道に行く人があつた、旗や幟を押立てゝ親類緣者さては隣の人々は樂隊の奏樂と共に勇みに勇める而かも里を離るゝ一種の感じの蔽はれがたき當人を上野の停車場に送つて出かけた、後に殘つたのは母と妹との二人で、家の内は今の今までとは反比例にいたく靜まつて寂しきが一入である、母は得堪えで内深く隱れて終つた、妹は健氣に行く人の後影を見送つて居る、長き列が角を廻つて兄の姿が全く見えなくなつた時。ふりかへりて四邊に人氣なきを見て、急に雙の袖でパッタリ顏を蔽うて駈け込んで疊の上にうつ伏した、斯樣な同胞

がありと知らば兄たる兵士も嘸奮發するであらふ、と遙か此方の堤の上にて友人と共に語つたとであつた。

●佛式のさみしき葬送の列がしづ〳〵進んで行く、彼方よりいかめしき顏したる紳士は前曳つきの人力車で列を横切つて乘越した、葉卷きの煙草の煙が風に曳かれ居る元氣といへば元氣だか知らぬ、其處へ向ひの學校から出て來た十一二の少女が道の側に立ち止まつて肅然として柩に對して敬意を表せられた、我は限りなき敬意を更に此少女に表せざるを得ないと涙ながらに語る遺族があつた。

（澤生稿）

可憐の手紙

このごろは、ふかうら（深浦）も、ゆきは　すこしもありません、てらのにはには、まつのはは、みどりのいろになつて、みさたゞしき　おんなのやうなかたちをしてゐます。もみぢのはも　そのまつのはのやうなかたちでございます。

わたくしは、いままで　あなたをみたくて　みたくてゐたのにわたくしは　あそぶ（び）にいゞてまへ（ひ）りましたら　わたくしの　おつかさんは　さださん　これこれ　てがみはきましたよ　どなたの　ところからきたのでせうと　おもふて　わたくしはみますと　あなたのところから　きましたのでみますと　いろ〳〵のことばかり　かいで（て）をるので　そのこもりさんだつ（ち）にきくと　だれもいかないといふひとは　ひとりもありませんから　ふかうらへ　きてください　わたくしは　みんななかよくして　べんきやうをしてゐますから　どをかまた　をしへてください　五月にくると　をもふてまつてゐますから　このてがみのやうにしてください。（中畧）

わたくしこも　ほとけさまの　おしへをしらんひとは　どんなこともいひますけれども　わたくしは　ほんとにしない　あなたのいふことを　みんな　ほんとにしてをります　さやうなら

四月五日

花谷さだより。

こは、青森縣深浦の福田會（前號掲載）子守部の一生徒にして當年十二歳なる、花谷さだより、目下當地に來りて　奔走中なる　同會長千崎師に向つて贈したる書面なり。無學無教育なりし幼少

の子守女の、かばかり　長き書面を　認めたるさへあるに　師を思ふ切情誦然として、紙上に溢れ、其速に歸り來りて　更に敎を垂れんことを乞へる一節の如き　如何に　師が平生全心を傾けて愛育せるかを窺ふに足らん。　（牧羊生稿）

（侯爵山内家婚禮式之内）

御神床之次第

石井泰二郎

雄蝶花形瓶子　置鳥

木彫彩色下臺模樣野草

衝重（御紋附白繪松竹鶴龜）

奈良蓬萊

白繪御紋附松竹鶴龜衝重　下机

置鯉

右同　下臺模樣水草

雌蝶花形瓶子　衝重（右同）

右は禮節師範松岡止波子の調進されし御式中の一部なりしをつげるまゝしるしつ

●女子高等師範學校生徒募集　同校にては今回私費國語漢文專修科生四十名を募集し、來九月十一日入學を許可せらるべしと云ふ。該科は修業年限一年七ヶ月にして、師範學校女子部高等女學校の國語漢文科の敎員たるべきものを養成するものにて、既に本年三月三十日を以て第一回卒業生を出し、夫々地方に赴任して、中等敎育に從事せしむと云ふ。入學志願者は品行方正身體健全にして、修業年限四箇年の官公立高等女學校卒業生若くは之と同等の學力を有し、年齡十七年以上三十年未滿にして、夫を有せざる者の由にて、本年六月十

五日迄に願書を差出さば、試驗の上入學を許可せらるべしと云ふ。

●女子大學校開校式　同校は愈去月二十日を以て左の順序によりて盛大なる開校式を擧行せり。

一　奏　樂
一　君が代（一同起立）
一　敕語捧讀（一同起立）
一　開校の辭（校長成瀨仁藏）
一　祝　歌（ドクトル、ケーベル）
一　演　說
　創立委員會計監督　男爵　澁澤榮一
　發　起　人　侯爵　西園寺公望
　創立委員長　伯爵　大隈重信
一　祝　辭
　文部大臣松田正久君
　貴族院議長公爵近衛篤麿君
　衆議院議長片岡健吉君
　東京府知事男爵千家尊福君
一　奏　樂
一　祝　辭
　大日本女子教育會長公爵毋堂毛利安子君
　東京帝國大學總長菊池大麓君
　華族女學校長男爵細川潤次郎君
　女子高等師範學校長高嶺秀夫君
　女子教育奬勵會委員長伯爵土方久元君
　帝國教育會長辻新次君
一　奏　樂
一　立　食

●東京盲啞學校第十三回卒業式　同校にては去十六日午前九時右卒業式を兼ねて創業より廿五年と訓育點子採用してより十年の紀念式を行ひしに大雨にも拘らず文部省よりは松田文部大臣を始め各等高等官濱尾前文部大臣子爵野村樫密顧問官衆議院議員創業者舊樂善會員連合教育會委員生徒の保證人等凡四百五十名來觀し中には式を終るまで立ち通したる者數十名ありたり、來賓には創業より今日までの沿革を詳記し創業者山尾庸三前島密中村正直津田仙岸田吟香杉浦讓古川正雄小松彰の八名及最初の訓育院長大內青巒と最初の校長故理學博士矢田部良吉の二君肖像を挿入したる冊子と

種々の統計を印刷して配布し其式は(一)洋琴と琴の合奏にて始まり(二)證書授與の後校長の演述(三)文部大臣の演述(四)盲生卒業生總代男子は大きく書きたる謝辭を張出し之を手眞似にて文意を述べ女子は更に讀上げ啞生卒業生總代の點字の謝辭を指に別の謝文を張出し口上にて述べた後に(五)新卒業生二名の彈琴(六)卒業生を送る唱歌あり(七)創業者の一人津田仙君の創業當初の演述と横濱訓育院長米人ドレーパル氏の興味ある日本語の祝詞あり(八)獨逸より買入れたる訓育本版木製造器械の使用を盲人が示し(九)創業廿五年の紀念唱歌と訓育點字採用十年の紀念唱歌とありて式を終り創業より沿革を知る樣に陳列したる教授用具書籍の陳列室生徒成績品室啞生徒の催ふせる繪畫展覽室彫刻指物生徒の木象嵌展覽等を巡覽に供し午後二時よりは一般の人に之を縱覽せしめ音樂卒業生の催ふせる音樂會あり翌十七日より十九日まで毎日午前九時より午後四時まで校内の縱覽を許せしに横濱より三日共に英米人來觀し詳細の説明を乞ふあり三日間凡そ一萬三千人其間各室教員分擔して説明の勞を執り來觀者に滿足を與へたりといふ尚當日の紀念唱歌と生徒の祝詠謝辭を擧げて盲啞子弟の文志の大概を參考に供せんと欲すれども記事堆積の爲め遺憾ながら之を省畧することゝなりぬ。

●愛國婦人會　與村五百子女史の首唱と、一條、岩倉、近衞、島津、等其他の各夫人の發起とに依りて成れる同會は、先月二日其發會式を九段階行社に開きたり。こゝに同會の趣意書と規則とを載せて、其如何を報せん。

愛國婦人會設立主意書

掛卷も畏き吾が皇國の御楯となれる軍人たち戰場に臨みて或ひは彈丸に碎かれ或ひは瘴氣に蹈るゝに當り是の國民として其功に報ゆるは自づから種々の方法あるべしと雖生計困難なる遺族の救助こそ最も先にすべき者ならめ抑も我が帝國響に征清の役あり去夏復た兵を北清に出だしゝに忠勇義烈の軍人は命を鴻毛の輕きに比して雨なす彈丸の下に身を抛ち飯なす氷の床に夜を

守り名譽の戰死を遂げ不起の病に罹り異域の鬼となれる者果してそれ幾ばくぞされば公けにも深く之を憫みをぼしつぶさに救護の道を盡させ給へり然れども公の救ひの手には限り有て救はれ人は數限りも無しあはれ頭に霜を戴ける翁の子を先立てたる這ひぬざりたにあへぬ兒の親に後れたるあるは夫に別れ兄に離れて衢にさまよへるともがら擧げて數ふるに遑あらざるべし之を救ふの方法將たいかにすべき博愛に富み慈善を體せる巾幗社會の力を協せて以て是等の遺族を賑恤するにしく者無からん

爰に肥前唐津の人奥村五百子齡耳順に達して憂國の鋭氣然るが如く疊には朝鮮國の衰運を悲みて之を傍觀するに忍びず東奔西走してそが教育の道を開き今又奮然起ちて海を渡り血を踏み屍を踰え遠く北淸に入りて親しく戰地の實況と軍隊の勞苦とを視察し歸るに及びて切に其遺族救護の良法を講じ軍人達に後顧の憂ひなからしめ愈々皇國の光輝を放たしめんとす女史曰く

「願くは君達が半襟一掛の用を節し資を積みて之れに充てよ」

と眞に適切の言と云ふべしわれら不敏なりと雖も均しくこれ女史が同胞姉妹たりいかでか同感同情の熱涙を灑ぎて以て女史が希望を助けざるべき依りて爰に愛國婦人會なるものを設立し普く有志の諸媛を糾合せんとするに當り畏くも各妃殿下の聞し召す所となりて漸次御譽同の光榮を給はんとす希くは世の閨秀たち吾等が微衷を賞察ありて贊成助力せられんことを切望して止まざる所になん

愛國婦人會規則

第一條　本會は戰死及准戰死者の遺族を救護するを以て目的とす

第二條　本會は愛國婦人會と稱し事務所を東京に置く

第三條　本會々員たる者左の如し

一　會費として金貳圓を納むるもの

一　一時金五拾圓以上を寄附するもの

第四條　本會は多少に係らず有志者の寄附金を希望す

第五條　本會の目的を贊成し寄附せられたる金圓は確實なる銀行に保管せしむるものとす

第六條　本會へ收入したる金圓は總裁の裁可を經て遺族へ贈るものとす

第七條　本會に左の職員を置く

總裁	一名
會長	一名
理事	若干名
幹事長	各府縣に一名
幹事	若干名
評議員	若干名

第八條　本會は右職員の外委員若干名を置き事務に從事せしむ

第九條　本會の事務並に會計報告は毎年一回新聞紙を以て報告すべし

大谷派本願寺の育兒院及び幼稚園　大谷派にては、派内の有志僧俗相謀り、今回の紀念法要を紀

念として、一の育兒院を創立し、無告の子女を救濟せんとの計畫を進めつゝあり、又信徒中の有志者も同じく紀念法要を機とし、一大幼稚園を設立し京都淑女學校及び大日本婦人學會を聯絡して、家庭の改良を謀るべき計畫を立てつゝありといふ。

●大阪市東區愛珠幼稚園園歌　同幼稚園は、殆んど大阪市に於る幼稚園の鼻祖とも稱せらるべきものなるが、今回更に八萬餘圓の巨額を投じて新築せり。今其園歌を得たれば、左に之を記さん

園歌　正三位勳二等子爵福羽美靜作歌

第一

ほまれも高き　いまの花
東區今ばし　三丁目
それこの愛珠　幼稚園
ちきりめでたし　千代に八千代に

第二

なにはの浦の　なによりも
すゑたのもしき　幼稚園

ながきちぎりは　君が代に
すがたも高く　のぼすなりけり

●東京市女子實修學校設置方法　今回市教育會に於て計畫せる女子實修學校設置方法左の如しと

一本校は修身、國語、算術、裁縫、割烹其他家事に關する事項を教授する事
一本校には尋常小學校卒業以上の學力を有する年齢滿十二年以上の者を入學せしむる事
一本校の修業年限は二ヶ年とする事
一本校の授業は小學校授業時間後に於て三時間とする事
一本校生徒の定員を一百名とし授業料は一人一ヶ月金七十錢とする事
一本校の教場は當分麹町區飯田町四丁目私立稚松小學校の教室を假用する事
一本校は本年五月より開校する事

●婦女新聞　從來は重に一個人の手(?)により發刊せられ來りたる同新聞は、今回大日本婦人聯合會の機關となることゝなりて、鳩山夫人、下田歌子女史等大に同新聞のために盡さるゝことゝなれりといふ。

●教育學術研究會　高等師範學校教授大瀨甚太郎氏、指導の下に新に表題の會は創立せられたるものにして、從來の雜誌教育學術界を以て之が機關とし大に斯道の爲に盡さるべしとのことなり、尙會則等は次號に紹介することあるべし。

新刊紹介

●泰西名婦傳　全一冊　永山磯良編

近世西洋女流の名家の或は畫家として教育家として慈善家として學者として記者として各方面に成効せる八人の小傳を編みて一小册子となせるもの、吾人は今日の時勢に於て、かゝる必讀の良書の出でたるを喜ぶ。（定價三十錢。神田區表神保町、四　勢陽堂書房）

●姫百合　第三卷第四號

本號には栗島氏の享保文學と有德公は未だ完結するに至らず學術には枕草紙保元物語等の評釋あり文苑詞藻等例によりて頗賑なり。（一册十錢　同區北神保町三、姫百合社）

姫百合　第三卷第三第四　姫百合社

日本婦人　第十七號　帝國婦人協會

をんな　第三號
女學雜誌　第五百十四號
女子のとも　第八十八號
家庭　第四號
衛生談話　第三號
女鑑　第二百廿七號
彰善會誌　第三十七號
哲學雜誌　第十六卷第百十七號
學生倶樂部　第一卷第一號
兒童研究　第三卷第九號
淨土教報　第五百七十五六七號
教育時論　第七號
東京市教育時報　第七卷第六七號
教育實驗界　第二號
婦女の友志美　第七十六號
山梨教育　第百六十二號
上野教育會雜誌　第百七十四號
信濃教育會雜誌　第百六十八號
愛知教育會雜誌　第百九十三號
大分縣教育會雜誌　第九十九號
越佐教育會雜誌　第百六十七號
九州教育雜誌　第百五號
秋田縣教育會雜誌

大日本女學會
女學雜誌社
東洋社
大日本佛教婦人會
通俗衛生茶話會
國光社
彰善會
哲學雜誌社
育成會
教育研究所
淨土教報社
開發社
東京市教育會
育成會
成美社
山梨教育會
上野教育會
全會事務所
全會事務所
全會事務所
全會事務所
全雜誌社
秋田縣教育會

長崎縣教育雜誌　第百五號　教育舍
三重縣私立教育會雜誌　第三十號　仝會事務所
よろづ報知　第九號　扶桑通信株式會社
婦女新聞　婦女新聞社

會報

第六總會

明治三十四年四月二十一日午後一時より女子高等師範學校附屬幼稚園に於て開會す其順序左の如し

(一)高嶺會長開會の辭を述べられ

(二)中村主幹會務報告あり

(三)幹事半數改選に付投票をなし

(四)休憩此間に成績品縱覽

(五)町田則文君の幼兒の遊嬉に付ての演說及瀧山瑄氏の大阪愛珠幼稚園創立の際の實歷談あり

(六)餘興として盲啞學校生徒の筑前琵琶（大塔宮熊野落奈須與一）あり

(七)茶菓を供し隨意談話に移り遊嬉プロヂードをなし

(八)保姆合唱の歌をうたひ

閉會したる時に午後五時三十分來會者は、三輪信太郎君、高島平三郎君、瀧山瑄君、大日本教育會長辻新次君、新潟縣女子師範學校長廣瀨吉彌君、新潟縣第一師範學校長和田豐君、女子の友主筆石川正作君、教育實驗界記者渡邊英一君、教育時論記者石川岩吉君、女鑑記者山岡良旗君、毎日新聞記者松本隆海君、本會々長高嶺秀夫君、女子高等師範學校本科四年生五名、同保姆練習科生八名、本會會員五十九名、同伴者數名なりき。

幹事半數改選に付清水たつ、森島みね、佐々くさ、林ふみの四氏退職し投票の結果清水たつ、林ふみ松村ひさ、佐々くさ、森島みねの五氏當選す。

會務報告　第五年　自明治三十三年四月　至同　三十四年三月

一集會度數

内譯

總會　一度、常會　四度、幹事會　五度、評議員會、一度

幼兒發育研究組合會　十度

一雜誌發行

明治三十三年十二月本會規則改正ノ結果同三十四年一月ヨリ毎月一回雜誌「婦人と子ども」ヲ發刊セリ而シテ本誌ニ關スル金錢ノ收支計算ハ特別會計トシテ本會計ヨリ之ヲ分テリ

一會計出納　自明治三十三年四月　至同　三十四年三月

一金百六拾圓拾四錢七厘　總收入高

内譯

一金四拾壹圓七拾錢七厘　前年度繰返高

一金九拾圓五拾錢　會費

一金拾七圓六拾貳錢　報告代

一金拾圓參拾貳錢　寄附

一金百四拾壹圓六拾七錢五厘　總支出高

内譯

一金八圓拾五錢　總會費

一金壹圓八拾貳錢五厘　常會費

一金五拾五錢　幹事會費

一金五拾五錢　評議員會費

一金壹圓貳拾五錢　送別會費

一金四拾九圓貳拾貳錢　印刷費

一金七圓五拾七錢　筆墨紙費

一金拾八錢　器具費

一金貳拾圓八拾錢　郵便費

一金九圓五拾八錢　謝禮及雇人料

一金四拾貳圓　特別會計へ支出

差引殘金拾八圓四拾七錢貳厘

會費未納者　五十八人

（以上三月末日調）

一特別會計出納　自明治三十三年四月　至同　三十四年三月

一金百貳拾八圓　總收入高

内譯

一金七拾五圓　編輯費

一金四拾貳圓　本會計ヨリ受入

一金拾壹圓　寄附金

一金百拾七圓四拾六錢　總支出高

内譯

一金八拾四圓五拾錢　編輯費

一金貳拾貳圓五拾錢　原稿料
一金五圓七拾錢　速記料
一金參圓七拾五錢　郵便費
一金壹圓壹錢　雜費
差引殘金拾圓五拾四錢

（以上三月末日調）

一幼兒發育研究組合會

本組合會ハ現在會員二十五名アリ從來ノ如ク每月一回之ヲ開キ松本孝次郎氏ノ兒童心理及宮本仲氏ノ育兒衛生ノ講話アリタリ其講話題目左ノ如シ

兒童心理

一、天才ト教育法　二、ツーナー氏ノ兒童觀察談　三、感情教育ノ注意　四、幼稚園事業ニ付テ　五、兒童ノ遊嬉　六、兒童研究ノ歷史大畧

育兒衛生

一、滿一年ニ至ルマデノ乳兒　二、生理上ニ於ケル小兒ト大人トノ差　三、小兒養料　四、人工養料ト天然養料　五、小兒營養ニ付テノ心得　六、人工養料ノ保存法、撰擇法、消毒法　七、授乳ノ分量、及度數　八、人工養料ノ製法

入會

東京ノ部

女子高等師範學校　雨森釧
同　立花はる
本郷區駒込淺嘉町九十九番地　今井つな
本郷區龍岡町三十四番地　藤村いと
麴町區麴町小學校　柴岡照
淺草區淺草幼稚園　保科修
下谷區西町小學校　柴崎けい
神田區岩本町篠原小學校　丸山かく
日本橋區坂本小學校　中嶋行德

地方ノ部

宮城縣師範學校　村山つれ
島根縣濱田高等女學校　永地待枝
信州上田高等女學校　松木まつ
栃木縣高等女學校　建部よれ
山梨縣師範學校　內田すゑ
大分縣高等女學校　濱ふゆ
長崎縣師範學校　田島もと
三重縣高等女學校　新開みえ
佐賀縣師範學校　澁谷とく
鳥取縣高等女學校　安藤さつ
陸奧國西津輕郡深浦村佛苗學園　千崎如幻
廣島縣師範學校　島筒房吉
筑前國博多行町三十六番地　小笹文藏

退會

岡本初音

明治三十四年三月廿一日死亡

永井てつ

明治三十四年四月會費領收ノ分

金壹圓五拾錢　自三十四年四月至三十五年六月　松山いつ
金六拾錢　自三十四年四月至同九月　千崎如幻
金六拾錢　三錢餘り　自三十四年四月至同九月　吉田改メ佐藤嘉鎧
金拾錢　三十四年四月分　安藤よれ
金六拾錢　自三十四年二月至同七月　若尾久壽
金壹圓五拾錢　自三十四年四月至三十五年六月　小川小春
金壹圓　自三十四年二月至同十一月　師岡伸
金六拾錢　自三十四年二月至同七月　川村澄子
金六拾錢　自三十四年二月至同七月　中山すま
金六拾錢　自三十四年二月至同七月　安本こすゑ
金四圓　自三十四年二月至三十七年五月　山本よしゑ

金壹圓貳拾錢　自三十五年二月至三十四年二月　上野かく
金參拾錢　自三十四年二月至同三十四年二月　安野みち
金參拾錢　自三十四年二月至同三十四年二月　瀬野梅代
金參拾錢　自三十四年二月至同三十四年四月　武藤かめ
金六拾錢　自三十四年四月至同三十四年九月　瀧澤よう
金五拾錢　自三十四年四月至同三十四年八月　吉田しう
金六拾錢　自三十四年四月至同三十四年九月　脇屋よし
金六拾錢　自三十四年四月至同三十四年八月　小關せい
金五拾錢　自三十四年四月至同三十四年九月　星野ひさ
金六拾錢　自三十四年四月至同三十四年八月　中野よれ
金壹圓貳拾錢　自三十四年四月至三十五年三月　關千秋
金壹圓貳拾錢　自三十四年四月至三十五年四月　喜多島しう
金壹圓貳拾錢　自三十四年四月至三十五年三月　和田くら
金五拾錢　自三十四年四月至同三十四年八月　波佐谷みち
金壹圓貳拾錢　自三十四年四月至三十五年三月　山田千代
金壹圓貳拾錢　自三十四年四月至三十五年四月　廣瀬まさ
金六拾錢　自三十四年四月至同三十四年九月　福尾きく
金六拾錢　自三十四年四月至同三十四年九月　服部たき
金六拾錢　自三十四年四月至同三十四年九月　安藤たみ

彙報

金參拾錢　自三十四年四月至同四六月　妹尾明

金參拾錢　自三十四年四月至同四六月　千葉ひで

金壹圓貳拾錢　自三十四年四月至同四六月　田中ふさ

金壹圓貳拾錢　自三十四年四月至同三五年三月　安藤ゆき

金六拾錢　自三十四年四月至同三五年三月　多田きせ

金六拾錢　自三十四年四月至同四九月　清水あい

金六拾錢　自三十四年四月至同四九月　保科しゆう

金六拾錢　自三十四年四月至同四九月　淺岡はま

金參拾錢　自三十四年四月至同四六月　平野まち（内田改メ）

金五拾錢　自三十四年四月至同四八月　牧野かれ

金壹圓貳拾錢　自三十四年四月至同三五年三月　横田けい

金六拾錢　自三十四年四月至同四九月　石川いし

金六拾錢　自三十四年四月至同四九月　相賀よし

金六拾錢　自三十四年四月至同四九月　池邊千束

金六拾錢　自三十四年四月至同四九月　吉川さい

金六拾錢　自三十四年四月至同四九月　古市靜

金六拾錢　自三十四年四月至同四九月　小笹文藏

金六拾錢　自三十四年四月至同四九月　工藤ふじ

金六拾錢　自三十四年四月至同四九月　佐和山たか

金五拾錢　自三十四年四月至同四八月　成瀨きよ

金五拾錢　自三十四年四月至同八月　近藤はま

金五拾錢　自三十四年四月至同八月　後藤いと

金五拾錢　自三十四年四月至同八月　近藤しげ

金貳拾錢　自三十四年四月至同八月　北村いと

金壹圓貳拾錢　自三十四年四月至同三五年三月　三須とし

金壹圓貳拾錢　自三十四年四月至同三五年三月　小曾根よし

金壹圓貳拾錢　自三十四年四月至同三五年三月　大和田りよう

金壹圓貳拾錢　自三十四年四月至同三五年三月　河合ちよ

金壹圓貳拾錢　自三十四年四月至同三五年三月　山下つや

金壹圓貳拾錢　自三十四年四月至同三五年三月　堤てつ

金五拾錢　自三十四年四月至同八月　脇屋なほ

金貳拾錢　自三十四年四月至同五月　丸山かく

金參拾錢　自三十四年四月至同六月　杉本みさを

金拾錢　三十四年四月分

金貳拾五錢　自三十四年七月（半）至同九月

金壹圓貳拾錢　自三十四年一月至同十二月　岩村えつ

金四拾錢　自三十四年三月至同七月　小西信八

金壹圓貳拾錢　自三十四年四月至同三月　濱冬

金六拾錢　自三十四年四月至同九月　清水鶴

金參拾錢　自三十四年四月至同六月　神門とも

高山ふみ

次號豫告

精撰せる材料愈豐富にして趣味愈深し。次號より家庭欄には新に

永瀨醫學士の看護法を續載すべく、學術欄には**擊水生の英語俚諺解**の外新に**佐藤東京府師範學校教諭の百合の談**

東海生のうどんげの花を加へべく講義には**中村女子高等師範學校教授の育兒法**の外更に本號より掲載し始めたる**松本文學士の兒童研究法**を續載すべく

町田同校教授の臺灣の昔話は本號に完結して更に說林欄に**子供の遊嬉の話**を出ださるべく其他の各欄例によりて益賑なり。尙讀者諸君より有益なる寄稿論說等机上に堆積せしもの一々之を掲載するを得ず、爲めに寄稿者諸君の意に反くこと大なりしが、次號よりは更に

「寄　書」

の一欄を增し、以て之等金玉の文字を集め載せんとす。幾多の光彩は更に之によりて大に加はらん。希くは讀者諸君諸姉女子敎育家庭敎育幼兒保育等に關して平素諸君諸姉の懷抱せる所を大に世間に向つて發表せられよ。

此廣告に依り御注文の御方は婦人と子供を見たる旨御附記を乞ふ

新撰受驗寶典

第一編全十二冊

日本歷史問答
日本地理問答
外國地理問答
理化學問答
算術問答
國語問答 國文解釋
文法問答
修身問答
教育學問答
教授法問答
學校管理法問題

定價金拾三錢
五冊前金六拾錢
十二冊壹圓四拾錢
四月より毎月二冊づゝ發行し九月に至り全十二冊完了す

本書は問答的講義錄にして試驗問題と其答案とを數多登載して受驗者の便を圖れり

○第二篇續て發行す

總ての受驗者の羅針盤

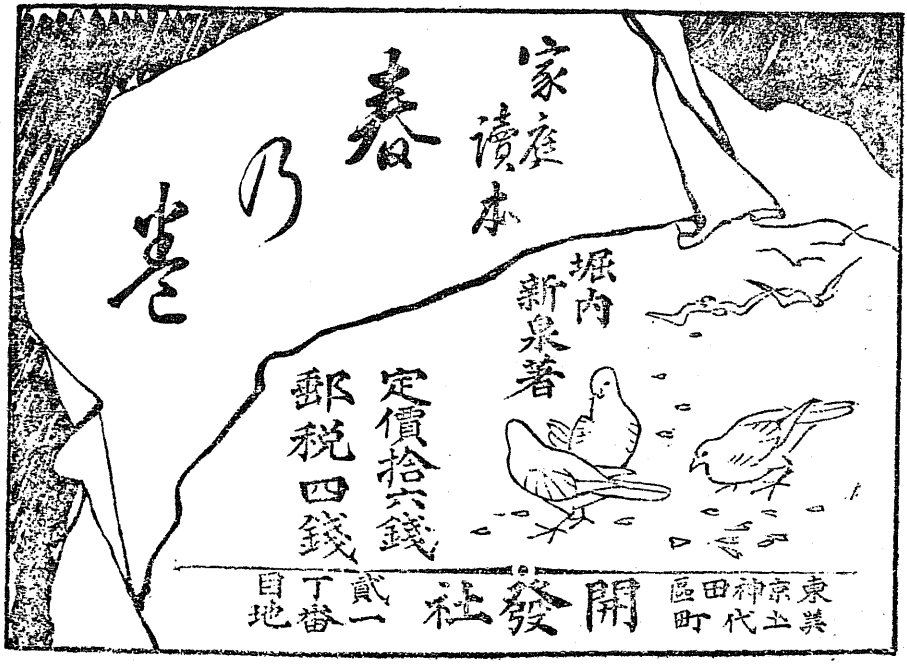
總ての受驗者の好師友

發行所 東京市本郷區森川町一番地 帝國通信講習會

發賣所 東京日本橋區本石町三丁目 金昌堂

（後付の一）

此廣告に依り御注文の御方は婦人と子供を見たる旨御附記を乞ふ



增訂三版

國史雜纂

全一冊　定價金四拾錢　郵稅金四錢

關根正直先生校閲　杉山文悟君　杉山發之助君　共編

本書は日本歷史を修むる者殊に之が檢定試驗受驗及斯道の獨習者の便に供せんが爲めに編纂したるものにして各項に收めし事柄は左の如し

(一) **人名**(又は神名)　古來歷史上に顯はるゝ人名(又は神名)を列擧し正確の讀書を示し其事跡を摘記す

(二) **地名**　古戰場及城柵を擧げ其所在地を示し且歷史上如何なる事のありしかを記す其他歷史上に關係ある地名

(三) **政治法律**　官職、位階、俸祿、貨幣其他諸制度法令等を擧ぐ

(四) **風俗**　家屋、飲食衣服及冠婚葬祭に關する事項其他種々の遊戲

(五) **學問**　古來著名の書籍の解題、藩學、私學及現時の諸學校の起原沿革

(六) **美術工藝**　繪畫、彫刻に關する事項、織物、染物樂器其他廣く美術工藝に關する事項

(七) **宗教**　神社、佛閣、宗教の諸宗派、宗教上の祭禮等

(八) **雜**　前七項の何れとも定め難きもの及其何れにも屬せざるものを擧ぐ

以て本書が如何に必要有益の書なるかを知るべし乞ふ一本を備へて其の眞價を試みられよ

發兌　東京市日本橋區本石町三丁目　金昌堂　杉山辰之助　(電話本局九百五十八番)

(後付の二)

此廣告に依り御注文の御方は婦人と子供を見かる旨御附記を乞ふ

◉總南多田房之輔主筆

國民教育學會機關雜誌

日本之小學教師

第貳拾九號五月十二日發行

一冊價金 拾錢
六冊前金 五拾七錢
外に郵稅 壹錢づゝ

本誌生れて三周年餘 茲に一大改良を加へ特に新聞紙條例によりて發行することとなり材料を撰擇して教室內の燈明となり、一面には侃々以て小學教師擁護者たるの任務を貫徹せんとするは本誌の大主眼なり。不羈獨立の本誌が如何に活潑銳利なる運動を試み、斯道 貢獻となるかは本號以下を讀みて知れ。本號には◉肖像、東京水野浩、京都井上半介、熊本三浦晟彥、長野寄藤好實の四小學校長◉論說、師範學校の弊害、第二十世紀の小學教師◉教授及管理、遊戲の方針、町田則文、國語科の級方教授、佐々木吉三郎)修身科教授(立柄教俊)三重縣師範學校附屬小學校兒童操行調査手續及同校兒童學業成績考査手續○東京府師範學校附屬小學校學業成績規程○如何にして道德教育國民教育の基礎を造るべきか(承前)(藤崎太郎)○北海道師範學校附屬小學校各科教授段階○福井縣師範學校附屬小學校教案例○岩手縣師範學校附屬主事森山君に質す(岡安末吉)遊戲の種類(岡山縣師範學校附屬小學校)◉學術講義社會學十回講義(第七回)(遠藤文學士)日獨初等教育制度の比較(中谷延治)教育小說グルトルート物語(記者)◉問答、物理學問答(樂水生)◉批評、三浦渡世平氏と根本莞爾氏○愛媛縣師範學校長佐野町泰彥君◉教育家傳記、故理學博士伊藤圭介翁及東京市小學校長水野鶴君の小傳◉小學教師界、普通免許狀受領者○熊本縣正教員俸給平均額并高給教員○小學校教員の懲戒○福岡縣小學校教員の動の統計◉內外彙報、視學官作運○東京市小學校授業料○渡部董之助氏と正木直彥氏○小學教師○苦學の結果○教育品奬勵品授與式○東京盲唖學校展覽會○第二回研究科學生○新文學屬○那珂通世氏と三宅米吉氏○高等師範學校教務員の革新○教育界苦情種一束○地方教育彙聞○外國彙報等例により材料豐富

發行所 東京市神田區表神保町一番地 國民教育社
發賣所 東京市日本橋區本石町三丁目 金昌堂

此廣告に依り御注文の御方は婦人と子供を見たる旨御附記を乞ふ

教育童話

世の教員父兄諸君幸に愛兒の爲に紹介の勞を取られよ

本書は小學校賞與品及び家庭の讀本に最も適當せり

第三篇 教育童話菅丞相

附丑の話

丑の三十四年一月發賣
定價金八錢
郵稅金貳錢

東は奥州の果より西は筑紫の極みに至るまで、一縣一郡の間天滿天神の祉なきはなし、天滿天神とは何ぞ、即ち菅丞相道眞公これなり、道眞公は延喜の朝に仕へて治績休明、勳功顯赫たりしことは人の略ぼ知る所なり、ことに其人品高く學術深く、千有餘年の後ちに至るまで、教師學童の爲めに尊敬せられ、その像を掲げし、戸々これを祭り、家々これを祀らざるはなし、此の如きに至る所以のものは、必ず其然る所あればなり、是を以て近來菅公を研究するもの漸く多く、日に月に其書を見るに至れるは誠に喜ぶべき事共なり、然れども其書たるや大方君子の覽に供するものゝみにして兒童の爲めにするもの少なし。多稼散人つねに之を懷にし、こゝに筆を執て菅公の傳を起し、文章極めて平易に、兒童走卒をして一讀了解し易からしめ、且つ畫工をして毎頁圖畫を挿さしめ、一讀の下、菅公の人と爲りを想起して、自から感奮興起の心を發せしむ。ことに明治三十四年は菅公の一千年祭を行ふの事あり、公の事を研究するものは是より益々多からん、この際菅公の何人なるやを人に問はれて知らずといはば、恥孰れかこれより大なるものあらん、速かに一本を座右に備へて公の人と爲りを知れ。

附錄には「牛の話」あり、短篇のお伽話にして、無邪氣なる所兒童の讀むに任せて亦一興。

教育童話

第一編 大黑天
同 大黑天續編
第二編 川遊び
第四編 孝の鑑 近刊

以下順次出版す

定價金八錢 郵稅金貳錢
定價金四錢 郵稅金貳錢
定價金八錢 郵稅金貳錢
定價金八錢 郵稅金貳錢

發行書肆 日本橋區石町三丁目二十三番地 金昌堂

此廣告に依り御注文の御方は婦人と子供を見たる旨御附記を乞ふ

文部書記官法學士松本順吉君著

小學校令施行規則註釋

菊版クロース金文字入
定價金壹圓八錢
郵税金

小學教育の普及上進は國家富强の依て繫る所にして一日も之を忽にすべからざるは固より論を俟たず今や小學校令改正せられ我國小學教育に刷新を加ふべきの時機に際し此時に當り能く同會の精神を研究し以て小學教育の普及上進に資するは教鞭を執らるゝ教員諸氏は勿論教育行政の衝に當らるゝ諸氏の最も急務とせらるゝ所なるべし本館茲に慮ばかるところあり同令の起草に參與せられたる松本君に請ひ小學校令及同施行規則に註釋を施し之を上梓せんとす本書は丁寧に各條の精神を明にし親切に其應用を示したれば以て小學教育の指針と爲すに足らん請ふ陸續御申込あらんことを

（注意）追而今般愈々製本出來候處發兌部數意外に多きを以て

此廣告により御申込の諸彦に對しては特に定價の一割引金九拾錢を以て貴需に應ず

文部書記官兼參事官法學士松本順吉君著

既刊

教育行政法要義 完

附小學校令並施行規則

定價金 五拾錢
郵税金 四錢

近來教育事業の大に擴張せられたるにつき教育に關する議論亦盛に行はれて著書の多き汗牛充棟も啻ならず特り第一講せらるべくして未だ殆んど講せられざるは教育に關する行政法規の法理なり著者夙に之を憂へ公務の餘暇本書を公にして教育行政の法理を闡明し以て我教育界の刻下の急に應せんとす叙述簡約にして明晰學理に偏せず實地に泥まず啻に教育家の法理研究に資するのみならず又大に實務家に便益を與ふべし乞陸續御購讀あらんことを

發兌元
大賣捌所

東京市神田區南神保町四番地 書肆 明倫館
東京日本橋區本石町三丁目廿三番地 金昌堂

此廣告に依り御注文の御方は婦人と子供を見たる旨御附記を乞ふ

總裁　小松宮大妃殿下
副總裁　鍋島侯爵令夫人

婦人と子供

（卷首挿畫）福羽子爵寃懷○方鎮子寃歌かる（論說）女子の體育安井哲子○迷ひ十時文學士（學藝）科學大意島村龍太郎○美術一斑紀淑雄○沙翁梗概○歌文批評今泉定介大口鯛二（修身）未來の姑鳩山春子（齊家）泰西禮法津田梅子○割烹石井泰次郎（世務）家政上注意すべき罰令談法學士日下田歌子○十九世紀の婦人○國史上の婦人（譚艸）暗流水谷不倒○教の梯子○鬼と農夫○武雄と文也（詞藻）晃親王遺詠○庚子夏日記坂正臣○ゆゞ會詞藻（雜錄）清韓實歴談奥村五百子○床の間飾心得松浦伯爵○圖案武村千佐子（時事）增稅問題○私立大學（彙報）愛國婦人會其他

發行所　東京市麴町區土手三番町十八番地　大日本女學會

第參號發兌（第一號第二號再版出來せり）

定價金十五錢　全國無遞送料

大賣捌　東京神田區表神保町三番地　東京堂

家事衛生

醫學博士　三宅秀先生著

全一冊

總クロース綴金文字入り

定價金六十錢郵稅金六錢

此書は醫學の泰斗たる帝醫科大學長醫學博士三宅秀先生が文部省の囑託に由り各府縣師範學校高等女學校の女教員方を集め夏期講習會を開きて講義されたるものを此度大日本女學會より發行せられたるなり書中衣服●飲食物●住居●育兒●看病の五篇に別ち細密其衛生法を示し我國一般の民度に應じて實行し易き樣に說明せられたり家政を主る人々に取りて此上なき有益の良書たるは勿論教育の任に當る人々にも缺くべからざる參考書なり

發行所　東京市麴町區土手三番町二十八番地　大日本女學會

大賣捌　東京市神田區一ツ橋通町七番地　有斐閣

（後付の六）

此廣告に依り御注文の方は婦人と子供を見たる旨御附記を乞ふ

新刊

女學校用 算術教科書

東京府第一高等女學校教諭溝口鹿二郎先生編纂

全二冊　上卷　金五拾五錢　下卷　金五拾錢

女子の算術上の智識は、深く理論に入るを要せず。唯理論に基きたる必要なる少數の事實を、精密に且明瞭に會得せしめ、是を自在に運用せしめんことを必要とす。本書は此趣旨に基き、先生が多年女子教育に從事せられし經驗に依り、女子に最必要にして且最普通卑近なるものを載せ、以て他日一家を治むる時に於て、是を運用して家計其他複雜なる數學上の問題を、明瞭に理解し得べき根蔕を得しめんがために著はされたるものにして、處々に少しく困難なる理論、或は例題等を挾まれたるは、理論を全然不必要なりとして顧みざるが如き偏見にわらざるを見るべし。高等女學校の好教科書たるは勿論、一般婦人方の好參考書たるべし。

女子普通文典

文學士芳賀矢一先生校閲　山根勇藏先生著

全一冊　定價　金五拾五錢

本書は、多年雜誌『女鑑』の主筆として、其他各學校國語科講師として、最も語學教授に經驗多き山根先生の著に成り、至難なる我邦文法を最明瞭に最簡易に學び得しむべき良書にして、各女學校の好教科書たるは勿論、一般學生方に好參考書たりといふべし。

發行所　東洋社　東京市神田區三番地

此廣告に依り御注文の御方は婦人と子供を見たる旨御附記を乞ふ

醉人の妻

高等小說

久保天隨筆

『醉人の妻』は純清高潔の小說なり。紊亂せる家庭の讀物にあらず、又墮落せる學生の讀物にもあらず。『醉人の妻』は文學上特殊の地位に立ちて一種の異彩を放つものなり。淫靡を好む者の讀物にあらず、又趣味低き者の讀物にあらず。誠に其思想を清新にし其感情を高尚にするに於て『醉人の妻』は倫を當代に絕つ。溫良なる家庭の讀物淑女良妻賢母の讀物、學者教育家の必ず讀むべきものなり。

やまと綴美麗裝本

定價金五拾錢
郵稅金六錢

發行所 東京市本郷區森川町一番地 育成會

女子高等師範學校講師岡田巳作先生編輯

女子書翰文

上卷正價金貳拾五錢 下卷正價金貳拾八錢 郵稅各金四錢宛

文部省檢定齊

女子習字帖

全四冊

一卷金拾錢 二卷金拾壹錢 三卷金拾貳錢 四卷金拾五錢 郵稅各金貳錢宛

發兌元 東京市日本橋區本石町三丁目廿三番地 金昌堂

烏丸帖

全二冊

上卷金拾八錢 下卷金貳拾錢 郵稅各金四錢宛

古今和歌集序

新刊

定價金貳拾五錢 郵稅金貳錢

此廣告に依り御注文の御方は婦人と子供を見たる旨御附記を乞ふ

新刊廣告

普通育兒法

醫學博士 弘田長 校閲
小兒科 木村鉞太郎 著

定價七拾五錢
郵稅金拾錢

右發賣候也

東京市日本橋區本町三丁目
發行所 金港堂書籍株式會社

東京市日本橋區本石町三丁目
賣捌所 金昌堂

新刊講習用書

東宮侍講本居先生題詠○國語研究組合編纂

再版

簡易日本小文典

全一冊 定價三拾錢 郵稅四錢

右書は刊行するや否や富山、大分、茨城、愛知、福井等の講習用書に採定せらる本書内容の如何は言はずして知るべきなり。

長野高等女學校教諭 河野齡藏
長野縣師範學校教諭 矢澤米三郎 合著

再版

普通理科教科書

理化學及礦物之部全一冊 定價四拾錢 郵稅六錢 挿畫八十餘入

本書は刊行するや直に長野縣其の他の講習用書に採定せられ、忽ち再刊の榮を荷ふに至れり、乞ふ結々愛顧を賜へ。

女子高等師範學校講師 東基一 著

新刊

新編小學教授法

全一冊 定價四拾五錢 郵稅六錢

教授汎論各論(小學尋常科高等科とも)ありて、簡單平易なること他に比類なし、蓋し講習用、教科書の白眉たるものならん

東京市本郷區森川町一番地
發行所 帝國通信講習會

東京市日本橋區本石町三丁目廿三番地
發賣所 金昌堂

明治三十四年五月五日發行（毎月一回五日發行）
明治三十四年二月六日内務省許可
明治三十四年一月二十八日第三種郵便物認可

國語研究會編

新體 兒童い文例

五月中發行　製本優美
定價金拾錢　郵税金貳錢

小學校に於ける諸學科の内、兒童の最困難するは國語科中の綴方なり。とは世人の齊しく唱ふる所なり、綴方教授實に困難なるに相違なきも教授法の研究未だ足らず方法宜しきを得ざる責もなしと謂ふべからず、本書は先きに小學國語綴方教授書を出して兒童の發達階段に留意し其の思想に適合せる教材を選び方法を採るべき模範を示し、大に世に歡迎せられたる國語研究會の編したるもの、文題悉く兒童的にして更に又兒童的思想と兒童的表出と綴り得て遺憾なきは是れ實に本書の特色なり、決して世にありふれたる「寸楮拜啓、御座候」的のものにあらず、されば尋常科三四學年、同補習科、高等科一二學年生徒の模範文とするに最適せり、且つ紙質製本共に頗る優美なれば賞與品に適せり。

新體 兒童普通文例

新體 女兒のたまづさ

近刊

發行書肆　東京市日本橋區本石町三丁目廿三番地　金昌堂